



三重大学学生総合支援センターホームページ
<http://www.mie-u.ac.jp/life/>

三重大学
学生総合支援センター
Mie University Center for Student Support

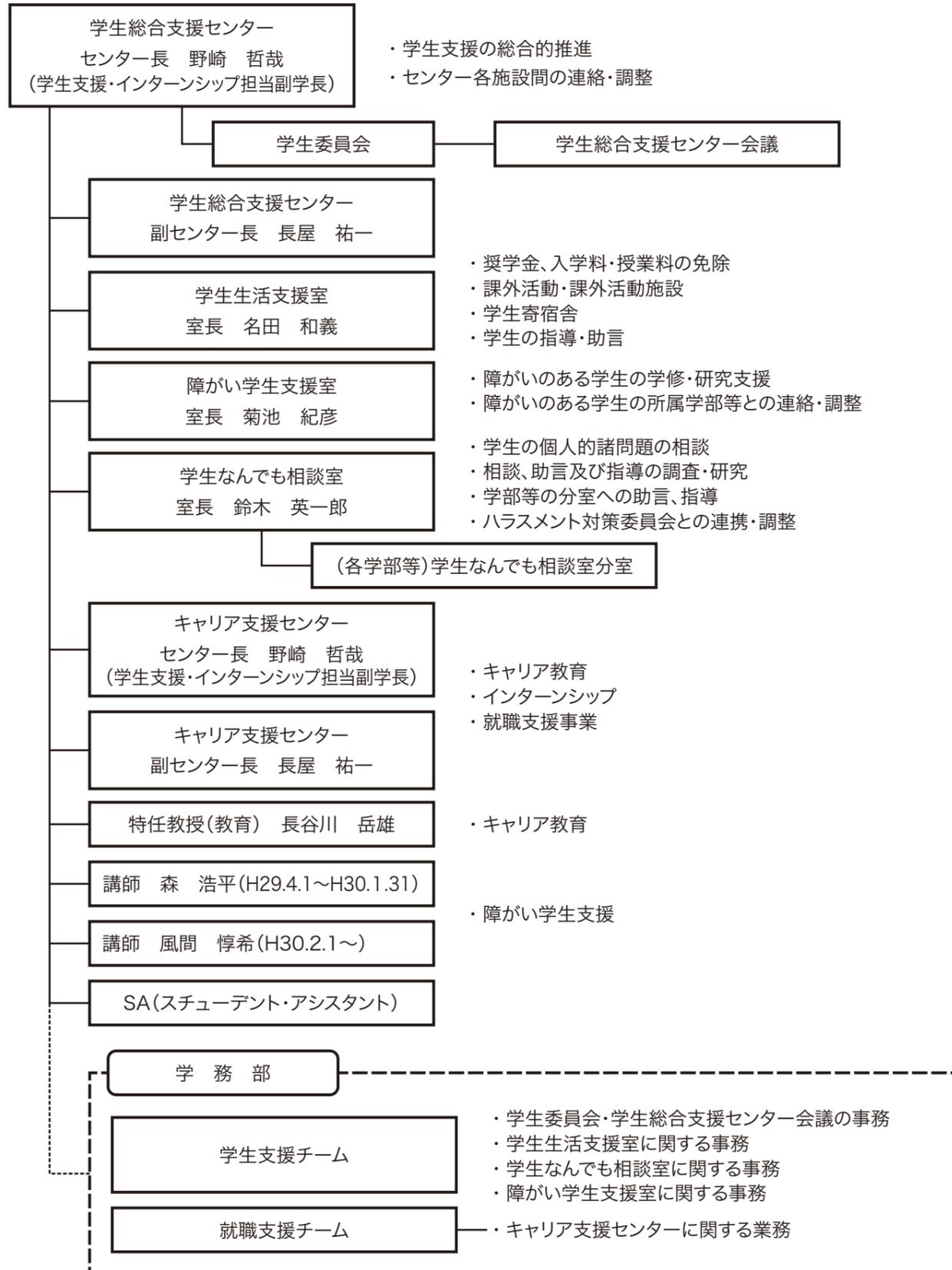
2017年度
報告書

目次

I 学生総合支援センター	
・組織図	01
・学生総合支援センター会議 委員名簿	02
・学生委員会 委員名簿	02
II 学生生活支援室	
・活動報告	03
・奨学生数	05
・学部別外国人留学生数	06
・国籍別外国人留学生数	07
・入学料免除者数	08
・授業料免除者数	09
・学生寄宿舎入寮許可状況	10
・学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険加入者数	11
・第66回東海地区国立大学体育大会成績結果	12
・クラブ・サークル一覧(体育系・文化系)	13
III 障がい学生支援室	
・活動報告	15
・三重大学障がい学生支援セミナー2017 実施報告	17
・「教職員における障害への意識・理解に関する調査」回答結果について	20
IV 学生なんでも相談室	
・活動報告	31
・ぴあのわ(全国大学ピアサポーター合同研修会)の運営について	33
・学生なんでも相談室ニュースVol.7	35
・学生なんでも相談室ニュースVol.8	39
V キャリア支援センター	
・活動報告	41
・就職状況	45
・キャリア科目のすゝめ	47
VI SA(スチューデント・アシスタント)	
・取り組みを振り返って	49
・キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	50
VII 学生総合支援センター主催行事	
・学生支援サミット2017	55
・アカデミックフェア2018	58
VIII 平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書	
・学生への支援	61

I 学生総合支援センター

平成29年度 学生総合支援センター 組織図



平成29年度 学生総合支援センター会議 委員名簿

		氏名	備考
委員	学生総合支援センター長	野崎 哲哉	議長 学生総合支援・インターンシップ担当副学長
	キャリア支援センター長		
	学生総合支援センター副センター長	長屋 祐一	
	キャリア支援センター副センター長		
	学生生活支援室長	名田 和義	
	障がい学生支援室長	菊池 紀彦	
	学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎	
	学務部長	中島 英雄	
	講師	森 浩平	
講師	風間 惇希		
陪席	学生支援課長	草川 弥生	
	学生支援チーム副課長	吉田 幸乃	
	就職支援課長	富島 嘉夫	
	就職支援チーム副課長	高倉 良男	

平成29年度 学生委員会 委員名簿

		氏名	備考
委員	学生総合支援センター長	野崎 哲哉	委員長 学生総合支援・インターンシップ担当副学長
	学生総合支援センター副センター長		
	人文学部	井上 稔浩	
	教育学部	宮岡 邦任	
	医学部	成田 有吾	
	工学研究科	富岡 義人	
	生物資源学研究科	取出 伸夫	
	保健管理センター	新保 秀人	
	国際交流センター	松岡 知津子	
	学生生活支援室	名田 和義	
	障がい学生支援室	菊池 紀彦	
	学生なんでも相談室	鈴木 英一郎	
	学務部長	中島 英雄	
	陪席	学生支援課長	
学生支援チーム副課長		吉田 幸乃	
学生支援チーム主任		中村 周平	
就職支援課長		富島 嘉夫	
就職支援チーム副課長		高倉 良男	

Ⅱ 学生生活支援室

平成29年度 活動報告

1 全学オリエンテーションの開催

新入生を対象とした学生総合支援センターオリエンテーションを開催し、長屋祐一学生総合支援センター副センター長及び鈴木英一郎学生なんでも相談室長から、学生生活支援室、障がい学生支援室、学生なんでも相談室、キャリア支援センターの利用方法の説明があり、修学基盤を総合的に支援することを周知した。津警察生活安全課による交通マナーの遵守、未成年飲酒防止および違法薬物の乱用防止などの指導、大学防災室による地震・津波等大規模災害時の対応方法など、これから始まる新しい生活を送るうえで、起こり得る様々な危険を回避するための講話や、ピアサポーター学生委員会学生から活動内容の紹介を行った。

2 学生を支援・担当する教職員を対象とした研修会

日本学生支援機構主催の奨学金に関する説明会や学生が抱える様々な悩みや相談に対応する教職員を対象とした学生支援研修会や、スチューデントコンサルタント資格の取得のための研修講座に、教職員を積極的に派遣した。

3 学生向け出張労働相談会の開催

学生の本分である学業とアルバイトをめぐる労働条件確保にかかる様々な問題が増加傾向にあることから、三重労働局雇用環境・均等室の協力を得て、出張労働相談会を6月28日(水)に開催した。

4 上浜キャンパス自転車登録制の実施

学内外での自転車マナー向上を目指し、上浜キャンパスに乗り入れる学生の自転車に登録シールを貼付する自転車乗り入れ登録制を引き続き実施した。また、学内における自転車の登録状況の調査を実施した。(H29.5月 自転車登録台数 6,792台)

5 交通マナー等の向上

近隣商業施設への無断駐車・無断駐輪や、歩行者・自転車の通学マナーなどの問題については、これまで同様、国道23号線江戸橋交差点付近での交通安全指導や定期的な巡回指導、津警察と連携した交通安全指導等を実施し、注意喚起を行った。交通安全指導は、前期4月11日(火)～4月21日(金)、後期10月16日(月)～10月20日(金)に実施し、学生総合支援センター教員やピアサポーター学生委員会の学生を中心とした多くの学生ボランティアが参加し、学生・教職員協働による取組として一定の効果を上げることができた。また、環境ISO学生委員会と共同で学内の放置自転車を回収し、処分した。(H30.3月 放置自転車台数 461台)

6 未成年の飲酒防止、学生の飲酒事故防止に係る指導

未成年飲酒防止の周知徹底や学生の飲酒事故防止のため、新入生には、新入生オリエンテーションにおいて、在学生には、特に新入生を迎える4・5月、夏季・冬季休業前などに、注意喚起を実施した。また、学生考案の未成年飲酒の防止やアルコール・ハラスメント防止の啓発シールを作成し、クラブ・サークル連絡会や各学部等に広く配布し、未成年の飲酒防止、学生の飲酒事故防止の指導を依頼した。

7 クラブ・サークル活動関係

毎月クラブ・サークル連絡会を定例開催し、各種注意喚起、連絡を行った。

また、音楽系クラブ・サークルが4月から1月までの授業期間中の毎週水曜日の昼食時に翠陵会館大集会室で「ミニライブ」を20回開催した。

9月9日(土)・10日(日)の両日、本学近隣の栗真地区社会福祉協議会が主催した敬老のつどいが4カ所の会場で開催され、本学課外活動団体の邦楽部、ジャグリアーノ!(ジャグリングサークル)、音楽サークルBb、応援団、ギターマンドリンクラブがそれぞれの会場に分担して出演した。

弓道部が、平成29年11月19日(日)、20日(月)に開催された第41回全日本学生弓道女子王座決定戦での準優勝をはじめとする、平成27年度からの一連の活動内容と大会結果が評価され、学長表彰を受けた。

8 課外活動施設の改善及び備品等購入助成

* 熱中症対策	第1体育館ウォータークーラー更新
* 第1体育館	水銀灯取替、玄関照明取替、女子更衣室換気扇交換、倉庫棚設置、壁時計取替、消防点検対応整備
* サッカー・ラグビー場	枯松伐採
* 陸上競技場、野球場	除草剤散布
* グランド周囲等	グラウンド用ベンチ購入
* 陸上競技場	スターティングブロック購入
* 野球場	防球フェンス購入
* テニスコート	コート部分修理、ネット2張購入
* 馬場	フェンス整備
* 弓道場	照明取替
* クラブハウス部室照明取替	
* 課外活動施設エアコンフィルター取替整備	
* ヨット関係	救助艇船定期検査塗装、ヨットセール
* 翠陵会館	和室畳表替、襖、障子張替
* 消耗品購入	陸上競技部、テニス部、硬式野球部、アメフト部、ラグビー部、サッカー部、自動車部、応援団、ボランティアサークル、音楽系団体等

9 学生の活動支援

本学の学生へ依頼のあった学生の地方行政団体行事への参画などの活動やボランティア活動の支援を行った。また、課外活動を行っている学生に、ボランティア活動の状況調査を実施した。

平成29年度 奨学生数

平成30年3月現在

区分 学部等		在学生数	日本学生支援機構			地方公共団体 民間育英団体	合計	在学生に 対する 百分率	
			第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人文学部	1,217	192	160	352	4	356	29.3%	
	教育学部	867	122	132	254	3	257	29.6%	
	医学部	1,094	128	137	265	396	661	60.4%	
	工学部	1,832	277	230	507	17	524	28.6%	
	生物資源学部	1,056	167	125	292	6	298	28.2%	
大学院	人文社会科学研究科	34	1	1	2	0	2	5.9%	
	教育学研究科	69	6	0	6	0	6	8.7%	
	医学系研究科	修士	37	4	1	5	0	5	13.5%
		博士	243	5	1	6	0	6	2.5%
	工学研究科	前期	466	172	4	176	0	176	37.8%
		後期	43	11	0	11	0	11	25.6%
	生物資源学研究科	前期	189	57	3	60	2	62	32.8%
		後期	54	7	1	8	1	9	16.7%
	地域イノベーション学研究科	前期	29	7	0	7	0	7	24.1%
		後期	20	1	0	1	0	1	5.0%
計		7,250	1,157	795	1,952	429	2,381	32.8%	

↑
在学生数
H29.5.1現在

平成29年度 学部別外国人留学生数調

平成29年11月1日現在

区分		学部		修士		博士		計
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部		10(7)	49(41)	12(9)	14(9)	0(0)	0(0)	85(66)
教育学部		16(10)	26(21)	6(5)	0(0)	0(0)	0(0)	48(36)
医学部		0(0)	0(0)	6(3)	0(0)	23(10)	0(0)	29(13)
工学部		17(2)	3(2)	11(6)	4(1)	8(1)	0(0)	43(12)
生物資源学部		0(0)	10(4)	28(14)	6(3)	32(13)	0(0)	76(34)
地域イノベーション学研究科		0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	0(0)	3(2)
国際交流センター		0(0)	32(25)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	32(25)
計		43(19)	120(93)	63(37)	24(13)	66(26)	0(0)	316(188)

平成29年度 国籍別外国人留学生数調

34ヶ国・地域 総数 316 (女子 188)

平成29年11月1日現在

国・地域	【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計	
	正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生		
アジア	中国	28(12)	51(38)	55(34)	16(10)	13(10)	163(104)
	インドネシア	0(0)	3(1)	25(15)	0(0)	0(0)	29(16)
	韓国	8(5)	6(5)	2(0)	0(0)	2(2)	18(12)
	ベトナム	4(1)	3(3)	6(1)	0(0)	5(3)	17(8)
	タイ	0(0)	2(2)	4(3)	1(0)	3(3)	10(8)
	台湾	0(0)	5(5)	0(0)	3(2)	0(0)	8(7)
	バングラデシュ	0(0)	1(1)	4(0)	0(0)	0(0)	5(1)
	アフガニスタン	0(0)	0(0)	5(0)	0(0)	0(0)	5(0)
	ミャンマー	0(0)	0(0)	5(1)	0(0)	0(0)	5(1)
	マレーシア	2(1)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)	4(2)
	モンゴル	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)
	ネパール	0(0)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	2(2)
	ラオス	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	2(0)
	カンボジア	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
	キルギス	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
フィリピン	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	
ウズベキスタン	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	1(1)	
中東	トルコ	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
アフリカ	エジプト	0(0)	0(0)	3(1)	1(0)	0(0)	4(1)
	ガーナ	0(0)	0(0)	4(1)	0(0)	0(0)	4(1)
	モザンビーク	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)
	ザンビア	0(0)	0(0)	2(1)	0(0)	0(0)	2(1)
	マリ共和国	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
	ガボン	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
	ケニア	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
	セネガル	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	1(1)
南米	ブラジル	0(0)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	2(2)
オセアニア	フィジー	0(0)	0(0)	3(1)	0(0)	0(0)	3(1)
	トンガ	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
ヨーロッパ	ドイツ	0(0)	9(6)	0(0)	1(0)	0(0)	10(6)
	フランス	0(0)	2(2)	0(0)	1(0)	2(2)	5(4)
	英国	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	2(2)
	ブルガリア	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(1)
	ラトビア	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
合計		43(19)	92(70)	129(63)	24(13)	28(23)	316(188)
		135(89)		153(76)		28(23)	

()は、内数で女子を示す。

正規生 172(82)

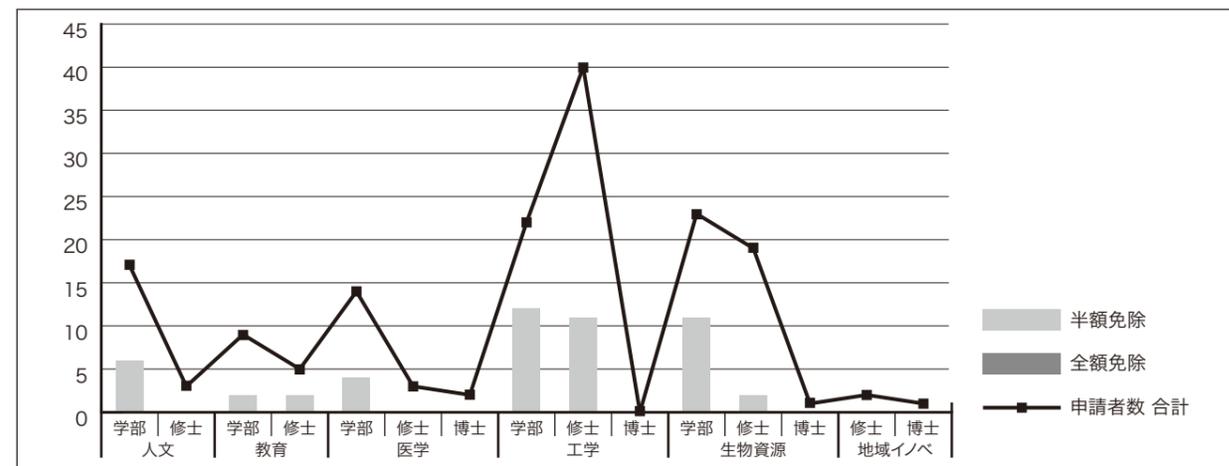
非正規生 144(106)

平成29年度 入学料免除者数(学部・研究科別)

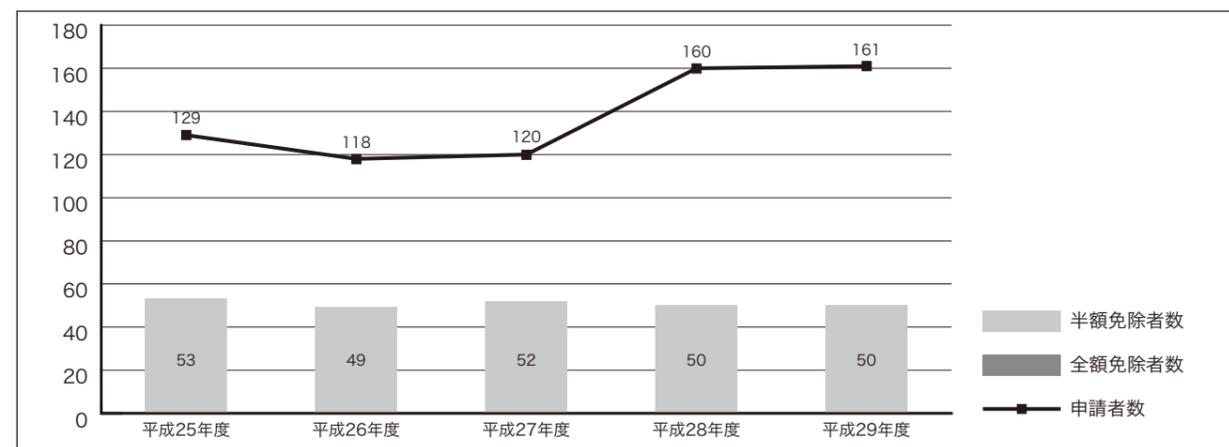
●入学料免除

学部・研究科名		免除申請者数	全額免除	半額免除
人文	学部	17	0	6
	修士	3	0	0
教育	学部	9	0	2
	修士	5	0	2
医学	学部	14	0	4
	修士	3	0	0
	博士	2	0	0
工学	学部	22	0	12
	博士前期	40	0	11
	博士後期	0	0	0
生物資源	学部	23	0	11
	博士前期	19	0	2
	博士後期	1	0	0
地域イノベ	博士前期	2	0	0
	博士後期	1	0	0
合計		161	0	50

●平成29年度入学料免除者数



●過去5年間の三重大学における入学料免除者数(平成25年~29年)

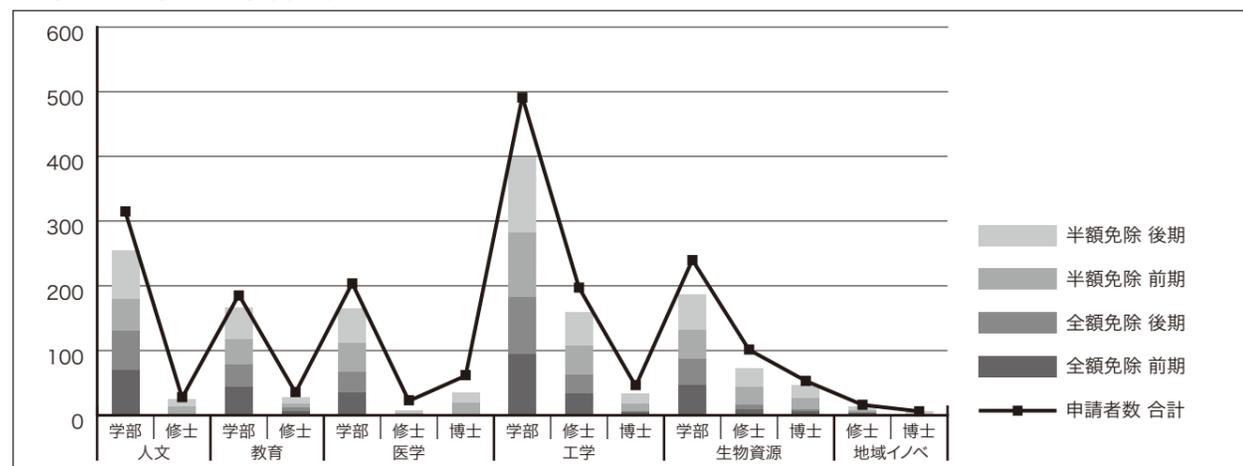


平成29年度 授業料免除者数(学部・研究科別)

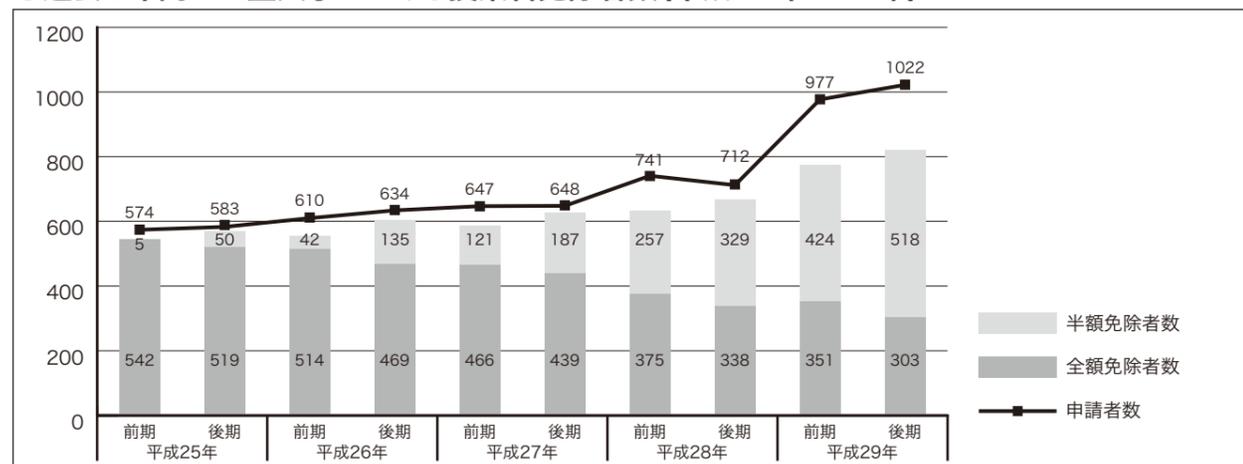
●授業料免除

学部・研究科名		申請者数			全額免除		半額免除		免除者計	
		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	148	166	314	69	61	50	74	119	135
	修士	13	14	27	0	1	12	12	12	13
教育	学部	91	95	186	43	35	39	50	82	85
	修士	14	21	35	6	5	7	10	13	15
医学	学部	98	106	204	35	31	45	54	80	85
	修士	11	11	22	0	0	3	4	3	4
	博士	36	25	61	1	0	18	16	19	16
工学	学部	238	254	492	95	88	99	117	194	205
	博士前期	101	96	197	34	28	46	51	80	79
	博士後期	23	22	45	4	2	12	15	16	17
生物資源	学部	118	122	240	46	41	44	56	90	97
	博士前期	50	51	101	9	7	27	30	36	37
	博士後期	27	26	53	6	3	17	20	23	23
地域イノベ	博士前期	7	9	16	3	1	3	6	6	7
	博士後期	2	4	6	0	0	2	3	2	3
合計		977	1,022	1,999	351	303	424	518	775	821

●平成29年度授業料免除者数



●過去5年間の三重大学における授業料免除者数(平成25年～29年)



学生寄宿舍入寮許可状況報告

●男子学生寄宿舍

定員:109名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	39	36	35	

●女子学生寄宿舍

定員:60名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	41	46	41	

●国際女子学生寄宿舍

定員:日本人学生50名 留学生25名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	日本人学生	23	23	23
	留学生	25	25	25

●留学生会館

定員:35室	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	単身室(30人)	14	14	14
	夫婦室(5室)	4	4	4

●留学生寄宿舍A棟

定員:49名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	単身室(17人)	8	7	7
	4人部屋(32人)	30	14	14

●留学生寄宿舍B棟

定員:35名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	単身室(35人)	18	17	17

●留学生寄宿舍C・D棟

定員:85名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成29年度	単身室(29人)※	10	10	10
	4人部屋(56人)	24	23	23

※C棟の留学生用単身室は9部屋。C棟には他に研究者用単身室が6部屋ある。

平成29年度 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険加入者数

学部・研究科	入学者数	加入者数	加入率	
人文学部	296	182	61%	
教育学部	208	126	61%	
医学部	206	197	96%	
工学部	453	377	83%	
生物資源学部	278	168	60%	
人文社会科学研究所	11	6	55%	
教育学研究科	35	13	37%	
医学系研究科	(博士課程)	39	29	74%
	(修士課程)	19	14	74%
工学研究科	(博士後期課程)	6	1	17%
	(博士前期課程)	226	144	64%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	10	6	60%
	(博士前期課程)	86	64	74%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	6	4	67%
	(博士前期課程)	16	12	75%
合計	1,895	1,343	71%	

●学研災付帯学生生活総合保険

学部・研究科	入学者数	加入者数	加入率	
人文学部	296	13	4%	
教育学部	208	9	4%	
医学部	206	31	15%	
工学部	453	25	6%	
生物資源学部	278	8	3%	
人文社会科学研究所	11	1	9%	
教育学研究科	35	2	6%	
医学系研究科	(博士課程)	39	0	0%
	(修士課程)	19	1	5%
工学研究科	(博士後期課程)	6	0	0%
	(博士前期課程)	226	5	2%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	10	1	10%
	(博士前期課程)	86	1	1%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	6	0	0%
	(博士前期課程)	16	0	0%
合計	1,895	97	5%	

●大学生協の学生総合共済

平成29年度

学部・研究科	入学者数	加入者数	加入率	
人文学部	303	211	70%	
教育学部	211	172	82%	
医学部	209	167	80%	
工学部	443	348	79%	
生物資源学部	258	221	86%	
人文社会科学研究所	14	0	0%	
教育学研究科	22	12	55%	
医学系研究科	(博士課程)	40	4	10%
	(修士課程)	17	1	6%
工学研究科	(博士後期課程)	8	2	25%
	(博士前期課程)	228	158	69%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	5	7	140%
	(博士前期課程)	98	61	62%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	6	0	0%
	(博士前期課程)	13	0	0%
合計	1,875	1,364	73%	

第66回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

①日時 平成29年5月20日(土)・21日(日)
6月3日(土)・4日(日), 10日(土)・11日(日), 17日(土)・18日(日), 24日(土)・25日(日)
7月1日(土)・2日(日), 8日(土)・9日(日), 15日(土)・16日(日), 23日(日)

②場所 ウェーブスタジアム刈谷他15会場

③幹事大学 静岡大学

④成績

(男子)

競技種目	三重大		静岡大		浜医大		愛教大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	4	5.0	2	8.0	8	1.0	1	10.0	3	6.0	6	3.0	5	4.0	7	2.0	
2 水泳	6	3.0	4	5.0	8	1.0	3	6.0	1	10.0	2	8.0	5	4.0	7	2.0	
3 硬式野球																	雨天中止
4 準硬式野球	3	5.5	5	2.5	5	2.5	3	5.5	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	3,4位別無し 5位以下順位無し
5 硬式テニス	5	2.5	2	8.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	5	2.5	5	2.5	5	2.5	5位以下順位なし
6 ソフトテニス	6	3.0	3	6.0	-	0.0	4	5.0	5	4.0	1	10.0	2	8.0	7	2.0	
7 バスケットボール	2	5.0	5	2.0			1	6.0			3	4.0	4	3.0	6	1.0	
8 バレーボール	5	4.0	2	8.0	-	0.0	3	6.0	1	10.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	
9 卓球	3	5.0	1	8.0			6	2.0	2	6.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0	
10 バドミントン	4	5.0	3	6.0	5	4.0	8	1.0	2	8.0	1	10.0	7	2.0	6	3.0	
11 サッカー	4	5.0	1	10.0	5	2.5	3	6.0	5	2.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5位以下順位なし
12 ハンドボール	4	4.0	6	2.0	-	0.0	1	8.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0			5位以下順位なし
13 柔道	4	3.0	3	4.0			5	1.5	1	6.0	5	1.5	2	5.0			5位以下順位なし
14 剣道	4	5.0	2	8.0	7	2.0	6	3.0	3	6.0	1	10.0	5	4.0	8	1.0	
15 空手道	5	3.0	3	5.0	2	6.0	6	2.0	1	8.0	4	4.0			7	1.0	
16 弓道	5	2.0	2	6.0	4	4.0			1	8.0	7	2.0	3	5.0	6	2.0	
17 体操	-	0.0	3	3.0			-	0.0	1	5.0	2	4.0					
18 馬術	6	1.0	3	4.0			2	5.0	5	2.0	4	3.0	1	6.0			
19 アーチェリー	4	2.0	5	1.0			2	4.0	1	5.0	3	3.0					
20 少林寺拳法	4	1.0	3	2.0					1	4.0	2	3.0					
男子順位	6		2		7		4		1		3		5		8		

(女子)

競技種目	三重大		静岡大		浜医大		愛教大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	3	5.0	2	6.0	6	2.0	1	8.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0			
2 水泳	5	3.0	6	2.0	4	4.0	2	6.0	3	5.0	1	8.0	7	1.0			
5 硬式テニス	5	1.5	3	4.0	1	6.0	2	5.0	4	3.0	5	1.5					5位以下順位なし
6 ソフトテニス	3	5.0	1	8.0	-	0.0	4	4.0	2	6.0	6	2.0	5	3.0			
7 バスケットボール	4	1.0	1	4.0			3	2.0			2	3.0					
8 バレーボール	-	0.0	5	2.0			1	6.0	3	4.0	2	5.0	4	3.0			
9 卓球	6	1.0	2	5.0			5	2.0	4	3.0	3	4.0	1	6.0			
10 バドミントン	1	8.0	6	2.0	4	4.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0	7	1.0			
12 ハンドボール																	オープン競技
13 柔道																	
14 剣道	4	4.0	2	6.0	7	1.0	1	8.0	3	5.0	5	3.0	6	2.0			
15 空手道	3	4.0	2	5.0	1	6.0	5	2.0	4	3.0	6	1.0					
16 弓道	1	6.0	6	1.0	4	2.5			2	5.0	4	2.5	3	4.0			
17 体操																	
19 アーチェリー	-	0.0	1	5.0			2	4.0	-	0.0	3	3.0					
20 少林寺拳法																	
女子順位	5		1		6		1		3		4		7		8		

平成29年度 クラブ・サークル一覧

●体育系・全学

平成29年11月30日現在

クラブ名				クラブ名						
男	女	計		男	女	計				
1	陸上競技部	48	17	65	30	トリアスロン部	14	4	18	
2	水泳部	21	6	27	31	応援団	37	34	71	
3	硬式野球部	54	5	59	32	ジャグリアーノ(ジャグリングサークル、大道芸)	40	20	60	
4	準硬式野球部	20	8	28	33	フラメンコサークル OLE!	5	14	19	
5	サッカー部	24	3	27	34	ロボコンクラブM3RC	12	2	14	
6	ラグビー部	26	9	35	35	BLUE MARINE(スキダイビング)	48	17	65	
7	アメリカンフットボール部	28	11	39	36	バスケットボール同好会	18	11	29	
8	馬術部	7	5	12	37	スキューバダイビングサークル	32	27	59	
9	硬式テニス部	15	9	24	38	天狗う(よさこいサークル)	19	22	41	
10	ソフトテニス部	38	8	46	39	サイクリングサークル	26	1	27	
11	ハンドボール部	22	6	28	40	合気道・武の道	6	9	15	
12	バレーボール部	9	9	18	41	ラインブレイク(釣り・アウトドア)	26	2	28	
13	バスケットボール部	11	10	21	42	NEXT(ダンス)	13	20	33	
14	バトミントン部	15	8	23	43	極津(よさこい)	0	28	28	
15	卓球部	25	6	31	44	WILL(テニス)	40	26	66	
16	体操競技部	6	2	8	45	合気道同好会	3	1	4	
17	ダンス部	21	17	38	46	テコンドー部	13	5	18	
18	柔道部	3	0	3	47	Wild Geese(アウトドア)	67	35	102	
19	剣道部	27	11	38	48	日本拳法部	7	2	9	
20	空手道部	6	4	10	49	電気自動車研究会	16	0	16	
21	少林寺拳法部	8	3	11	50	Estreno エストレーノ(フットサル)	23	1	24	
22	合気道部	12	9	21	51	Links(ソフトテニス)	18	6	24	
23	ワンダーフォーゲル部	9	2	11	52	バドミントンサークル ひらめ	31	15	46	
24	自動車部	17	0	17	53	颯 ~FREEDOM~(よさこい)	1	3	4	
25	弓道部	15	10	25	54	CHASE(テニス)	31	13	44	
26	洋弓部	8	1	9	55	サバイバルゲームサークル	11	4	15	
27	ヨット部	12	7	19	56	ITFテコンドーサークル	5	2	7	
28	ボート部(休部)	0	0	0						
29	端艇部(カッター部)	6	3	9		合計(体育系・全学)	56	1075	513	1588

●体育系・医学部

クラブ名				クラブ名						
男	女	計		男	女	計				
1	医学部サッカー部	33	11	44	11	医学部バレーボール部	30	25	55	
2	医水野球部	18	8	26	12	医学部卓球部	46	37	83	
3	医学部陸上競技部	19	27	46	13	医学部剣道部	24	27	51	
4	医学部ゴルフ部	40	26	66	14	医学部弓道部	22	22	44	
5	医学部ラグビー部	22	12	34	15	医学部空手道部	12	16	28	
6	医学部ハンドボール部	21	18	39	16	医学部競技スキー部	8	8	16	
7	医学部ソフトテニス部	18	34	52	17	医学部水泳部	12	4	16	
8	医学部硬式庭球部	28	38	66	18	医学部山岳部	8	4	12	
9	医学部バスケットボール部	17	19	36						
10	医学部バドミントン部	24	32	56		合計(体育系・医学部)	18	402	368	770

●文化系・全学

クラブ名				クラブ名						
男	女	計		男	女	計				
1	管弦楽団	16	34	50	32	SOLA(天文サークル)	10	4	14	
2	吹奏楽団	21	30	51	33	BBS(教育ボランティア)	11	36	47	
3	ギターマンドリンクラブ	18	13	31	34	ぶるさあ。(アンザンブルサークル)	31	42	73	
4	ギタークラブ	12	9	21	35	Pioneer(アカベラ)	38	41	79	
5	邦楽部	2	9	11	36	みえ・シネマ・アーカイブ	8	7	15	
6	室内楽団	5	18	23	37	ユネスコクラブ	3	4	7	
7	写真部	12	11	23	38	アンビシャスカード(マジック)	16	9	25	
8	合唱団	16	17	33	39	食農サークル 農らく	24	23	47	
9	美術部	6	19	25	40	DTMサークルJack	15	5	20	
10	漫画倶楽部	41	35	76	41	てらこや(国際交流サークル)	5	19	24	
11	ESS	48	38	86	42	K.A.F(森林ボランティア)	2	2	4	
12	軽音楽部	61	48	109	43	Meiku[メイク(地域おこし)]	12	13	25	
13	ジョイア(学習支援ボランティア)	7	1	8	44	つくしんぼサークル(子供ボランティア)	13	61	74	
14	人形劇団つくし(休部)	0	1	1	45	クッキングアシスト	6	11	17	
15	ピアノ同好会(KLUB KLAVIER)	14	22	36	46	mil-poa(手芸サークル)	0	8	8	
16	表千家茶道部	10	18	28	47	カフェ・サークル Le Lien	25	42	67	
17	裏千家茶道部	1	18	19	48	ジャズサークル Three Time Jazz Orchestra	6	6	12	
18	TRPG同好会(旧SF研究会)	25	3	28	49	TGJ 津学生情報室	9	19	28	
19	リカゲル(創作活動サークル)	16	9	25	50	三重大学放送局	6	4	10	
20	囲碁・将棋部	20	3	23	51	Bio Record(標本作製サークル)	13	7	20	
21	HELLO FM!	10	10	20	52	musée(イラストサークル)	0	6	6	
22	ヴァンパイア(献血推進サークル)	14	13	27	53	計算研究会	14	0	14	
23	エレクトーンサークル23-tow・three-	10	8	18	54	アイドルマスター研究会	12	0	12	
24	万葉旅行の会	4	6	10	55	トラッパーズ	6	1	7	
25	Bb	50	26	76	56	SYNERGY	4	1	5	
26	かめっぶり	27	13	40	57	ラブライ部	6	0	6	
27	書道サークル(心太)	3	1	4	58	カンボジア支援団体CSU	0	4	4	
28	劇団アディスト(演劇)	6	8	14	59	aquri-M	5	2	7	
29	ねこサークル	52	35	87	60	ESD セルフリライアンス	5	1	6	
30	落語研究会	1	4	5	61	パス茶	5	6	11	
31	編入サークル Transfer	38	17	55		合計(文化系・全学)	61	876	881	1757

●文化系・医学部

クラブ名				クラブ名						
男	女	計		男	女	計				
1	東洋医学研究会	25	17	42	8	Mie Project	5	2	7	
2	医学部軽音楽部	26	28	54	9	小児科ボランティア ぞくよん	18	44	62	
3	セッションクラブ BAG	42	23	65	10	MUSH(Mie University Students Helper)	7	11	18	
4	きゅうめい部	36	30	66	11	学生団体MORE	7	12	19	
5	U-Cam	8	12	20	12	献血推進サークル“ヴァンパイア”	14	13	27	
6	子どもと一緒に小児医療を考える会	5	6	11						
7	良き医療者をめざす会	73	16	89		合計(文化系・医学部)	12	266	214	480

平成29年度クラブ・サークル数	147	男	2619	女	1976	計	4595
-----------------	-----	---	------	---	------	---	------

Ⅲ 障がい学生支援室

平成29年度 活動報告

1 障がいのある学生に対する相談支援

表1に障がいのある学生に対する相談支援の状況を月別に示した。相談対応件数は464件であり、相談者延べ人数は547名(実人数は108名)であった。そのうち、教職員からの相談対応件数は174件、相談者延べ人数は209名(実人数は50名)であった。

表1 障がいのある学生に対する相談支援の状況

	相談対応件数		相談者延人数		相談者実人数	
		うち教職員		うち教職員		うち教職員
4月	35	6	39	6	20	6
5月	20	11	27	12	13	10
6月	22	8	24	10	12	8
7月	36	13	43	13	17	6
8月	49	24	65	27	29	12
9月	72	35	91	54	17	9
10月	43	19	52	22	24	12
11月	51	14	54	16	15	7
12月	23	5	24	5	12	3
1月	41	18	42	18	18	7
2月	19	3	22	3	10	2
3月	53	18	64	23	37	12
合計	464	174	547	209	※108	※50

※実人数は、平成29年度の年間実人数であり、合計で示さない。

2 支援学生の養成

教養教育の授業において、障がい学生支援実践を開講した。今年度の受講者は50名であった。障がい児(者)の支援に造詣が深い講師を招聘して実践的な授業(視覚障がい、聴覚障がい、運動障がい)を実施した。また、本学キャンパス環境整備室職員との交流会を実施した。平成30年2月22日に開催されたアカデミックフェアにおいて、学びの成果を発表した。

3 学生主体による障がい学生支援の推進

障がい学生支援室サポーターを組織した。今年度は24名の学生が参加し、学生相互の支援のあり方や、全学の学生に対する理解・啓発のあり方について検討を行った。学生中心に検討を重ね、障がいのある人たちが利用するための学内バリアフリーマップの作成に着手した。

4 学内における理解・啓発活動

- (1) 障がい学生が在籍する学部教職員との連携・情報交換、コンサルテーションの実施
入学早期からの障がい学生支援を目指し、入試チームや学部等の部局内連携を推進した。入試チームからは、障がいのある者の受験者情報や合格の可否についての情報提供を受けた。
各部局において、障がいのある学生とかかわりをもつ教職員に対する相談(主に学生対応に関するコンサルテーション)を実施した(件数については上述した)。
- (2) 教職員、学生を対象とした障がい学生支援セミナーの開催
障がい学生のより良い学修や学生生活に関して、学内の教職員および教育機関等で支援を行っている教職員や支援者を対象に、「障がい学生の就労に関する現状と今後の支援体制」というテーマで障がい学生支援セミナーを実施した。セミナーの参加者は82名(学内60名、学外22名)であった。セミナーの報告については、後掲した。
- (3) 教職員における障がいへの意識・理解に関する調査の実施について
本学におけるより良い障がい学生への修学支援のあり方について検討することを目的とし、教職員を対象とした調査を実施した。調査の回答については、後掲した。

5 関係機関との連携

- (1) 東海地区の大学、高等学校との連携・情報交換
三重県内の障害者職業センターやハローワーク、発達障がい者支援センターなどの外部機関と、本学学務部就職支援チームや学生なんでも相談室などの学内機関の支援担当者と、定期的な情報交換や事例検討を行った。
- (2) 三重県教育委員会との連携・情報交換
三重県教育委員会事務局特別支援教育課、同教職員課と障がい学生支援や特別支援学校免許の保有状況について情報交換を行った。

6 その他

- ① 各部局における障がい学生支援を推進するために、「三重大学における障がい学生支援のあり方について」を作成し、全学会議に報告及び各部局に周知を行った。
- ② 全国高等教育障害学生支援協議会第3回大会に参加し、障害者差別解消法と合理的配慮に関する情報収集や、障がい学生支援に関する情報交換を行った。
- ③ 三重県雇用経済部雇用対策課障がい者雇用班の企画する、働く障がい者が発表を行うセミナーに、障がい学生支援室サポーター4名を引率し参加した。

三重大学障がい学生支援セミナー2017 実施報告

2017年12月15日(金)に行った障がい学生支援セミナー2017について下記の通り報告する。

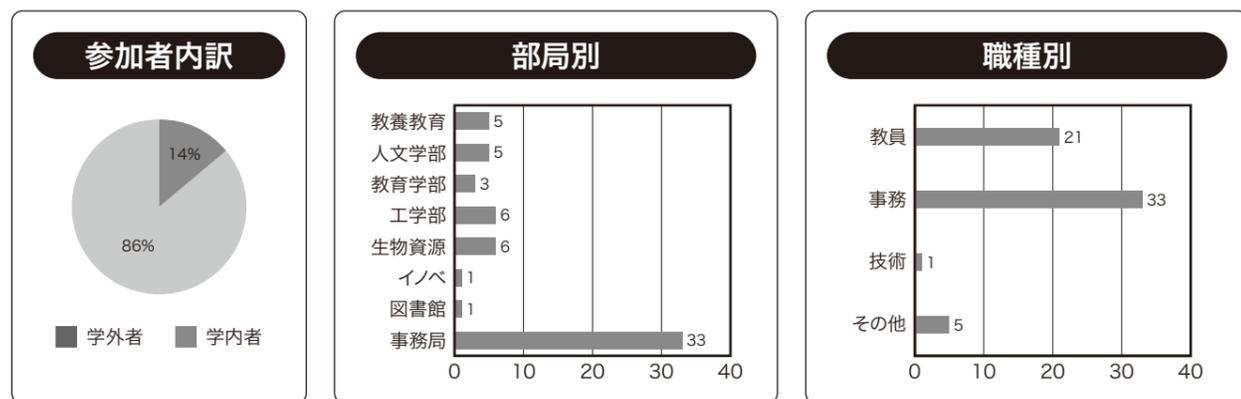
1 参加者内訳

	(名)
学内参加者	60
学外参加者	22
計	82

2 学内参加者内訳

	教養	人文	医学	教育	工学	生物	イノベ	図書館	事務局	計
教員	4	3	—	1	5	4	—	—	4	21
事務	1	2	—	1	1	1	1	1	25	33
技術	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
その他	—	—	—	1	—	1	—	—	3	5
計	5	5	—	3	6	6	1	1	33	60

学部以外のセンター等については、事務局へ含む。記入漏れについては、事務局およびその他へ計上した。



下記、セミナー時に行ったアンケート結果(回収数71名)について記載する。

3 セミナーを知ったきっかけ

	ポスター	E-mail	ホームページ	友人知人	その他	計
	8	42	5	6	10	71

その他のうち、5名は会議。

4 講演内容について役に立ったか

	役に立つ	やや役に立つ	どちらとも	あまり役に	全くたたない	計
支援体制	42	23	5	0	0	70
ハローワーク	35	30	3	1	1	70
支援センター	39	26	3	1	0	69
若者サポステ	51	16	2	1	0	70
職業センター	49	15	1	1	0	66

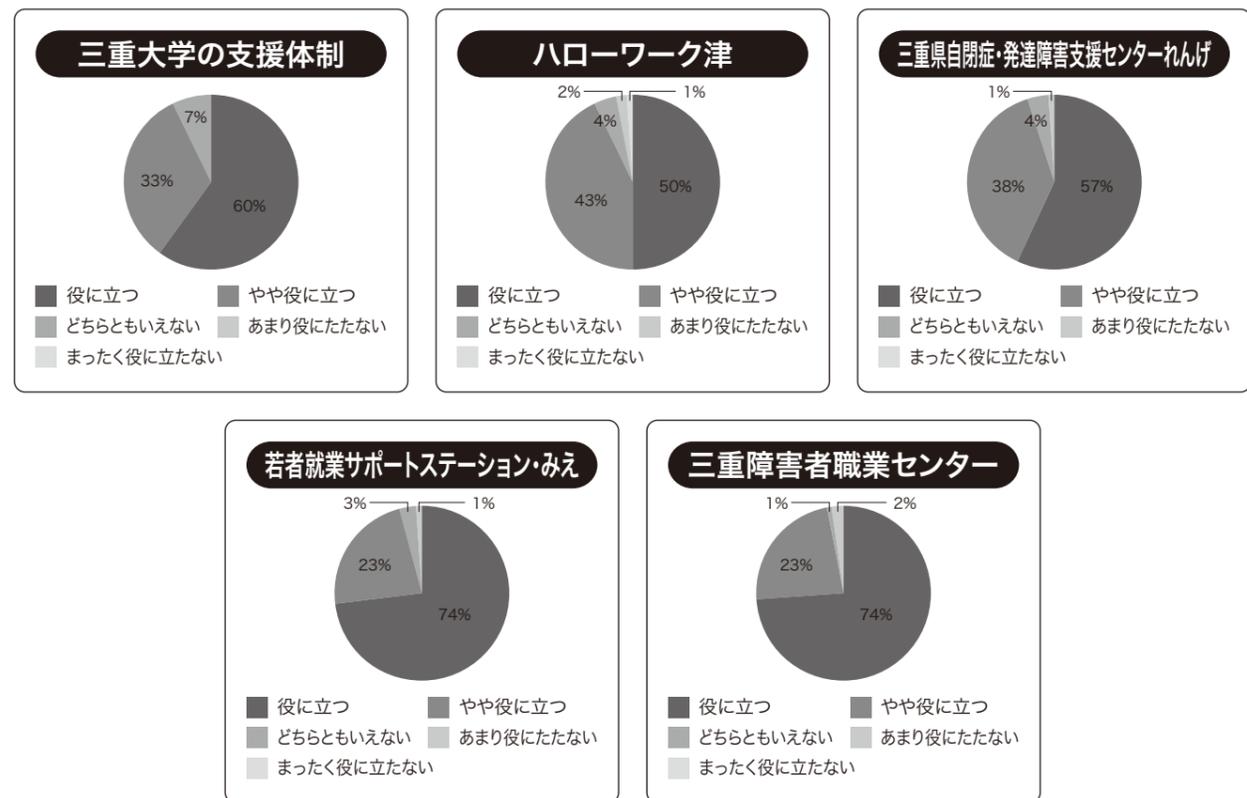
支援体制 → 三重大学における支援体制について

ハローワーク → ハローワーク津(取り組み紹介1)

支援センター → 三重県自閉症・発達障害支援センターれんげ(取り組み紹介2)

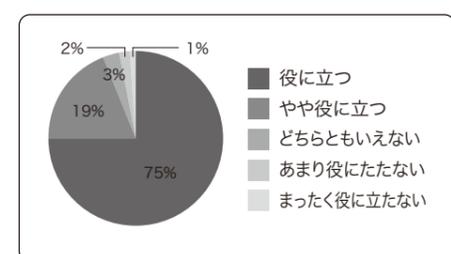
若者サポステ → 若者就業サポートステーション・みえ(事例紹介1)

職業センター → 三重障害者職業センター(事例紹介2)



5 今回の講演について障がい学生への対応を考える機会となったか

	あてはまる	ややあてはまる	どちらとも	あまり	まったく	計
	52	13	2	1	1	69



6 その他

講演についての意見・感想 → 19件

今後開催を希望される障害者関係のFD → 5件

(意見・感想)

- 障害者の障害受容に直面することが多い。障害者雇用になったら将来暗いと感じる学生も多く、雇用の良い面について知りたいと感じました(事務職員)。
- 本人が望まない支援をするわけにもいかず、「おかしいな?」と思える学生に対し何もできなかった経験があります。支援の難しさを感じます(教員)。
- 多様な支援組織があって、それぞれに支援を展開されていることがよく分かりました(教員)。
- 学生支援について、いかに大学全体と外部機関と連携して行っていかなければならないかということ学ぶことができました(事務職員)。
- 知識、経験の整理に役立った。対象者に合わせた、画一的でない支援が必要(その他)。
- 現場の教員はどのように接したら良いのかわからない(教員)。
- 様々な公的機関があることを知り、前向きにとらえることができました(教員)。
- 事例紹介があったので、具体的にイメージしやすくなった。オープン/クローズの理解が今まで全くなかったのも、その点をもっと理解を深めていきたいと思った(事務職員)。
- 授業と同じく90分がありがたい(教員)。
- 特に教員にもっと多く知ってもらえるとよい(キャパ増など)。勉強になった(事務職員)。
- 資料を電子ファイルで頂きたい(教員)。
- 教員が発達障害に気づいた潜在者がいた場合にはどうしたらよいのか(教員)。
- オープンにするタイミングが少しずれることで、当事者のその後の生き方に大きく影響するということ分かりました(教員)。
- 紹介頂いた事例が身近で起こりそうな内容で、今後学生に対応する際に注意が必要だと感じました(事務職員)。
- 参加者の割り振りが必要ならばはや講演でなく研修では、名称を変更してはどうでしょう(事務職員)。
- 大学と医療との関係、出身高校との連携などはどのようにか聞いてみたい(学外)。
- 発達障害については小中高等学校においても大きな課題となっています。やはり周りの人(教員、保護者)が気づき適切に支援する、また本人、保護者と支援内容を共有して進めることが大切であると考えます。早期ということで組織としてもさらに取り組みを進める必要性があると改めて感じました(学外)。
- 今学内で色々対応に苦慮していることが、とても明確になり、大変参考となりあり難かった(学外)。
- 連携の取り方が具体的であったので、連携会議の様子など見学させて頂けるとあり難い(学外)。

(希望)

- こういう機会を引き続き作っていくべきかと思えます(教員)。
- 教職員の認知特性、支援の特性とその難しさについてのセミナーがあるとよい(教員)。
- サポートステーションみえの正木さんのお話が非常に勉強になったので、正木さんを講師としたFD、講演会を開催していただきたい。学外の方、特に保護者の方にも開放して実施しても良いのではないかと思います(事務職員)。
- この種のFD開催は良いと考えるが、12月1月といった卒修論で学生指導の時間がタイトな時期に動員を伴う形での開催は控えて頂きたい(教員)。
- このような機会をまた県内の他の教育機関で開いていただきたい(学外)。

「教職員における障害への意識・理解に関する調査」回答結果について

1 概要

平成28年4月より、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、国・地方公共団体等(国立大学を含む)では、「不当な差別的取り扱い」の禁止と「合理的配慮」の提供が法的義務となった。三重大学においても障害等のある学生が複数在籍し、教職員の方々や学生の支援を受けながら学生生活を送っている。

三重大学ではこれまで障害学生支援に関する全学的なアンケートは行っておらず、今後三重大学でのより良い障害学生への修学支援の在り方について検討することを目的とし、本学教職員を対象とした「障害への意識や理解等に関するアンケート調査を企画・実施した。

2 方法

全学にWeb上でのアンケートシステムまでつながるURLを記載したメールを送信し、調査の趣旨を読まれ同意を得られた方に回答頂いた。

3 対象

三重大学に在職中の教員596名、及び職員799名の職員を対象とした。障害のある大学生への対応を行わない付属学校、及び病院従事の教職員は、対象から除外した。

4 期間

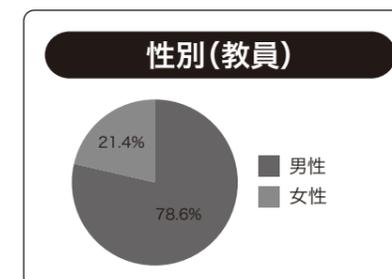
後期開始後の10月23日(月)～11月13日(月)を回答期間とし、11月22日(水)まで期限を延長した。

5 回答者数

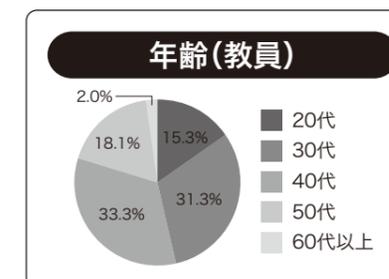
最終期限までに回答を頂いた数と割合は、教員596名中254名(42.6%)、職員799名中445名(55.7%)であった。

6 回答結果

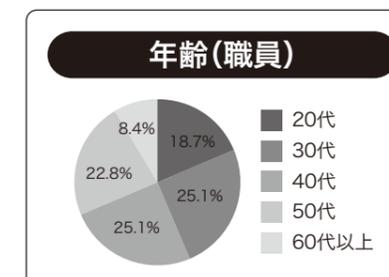
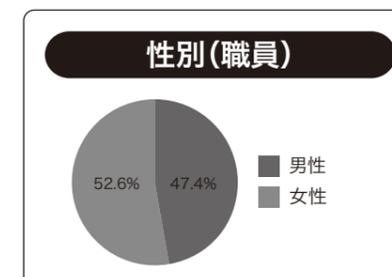
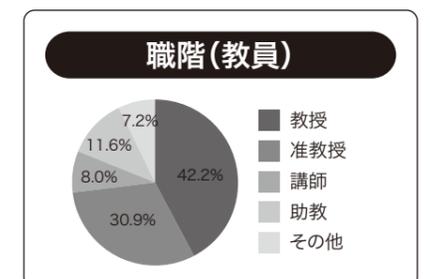
(1)性別



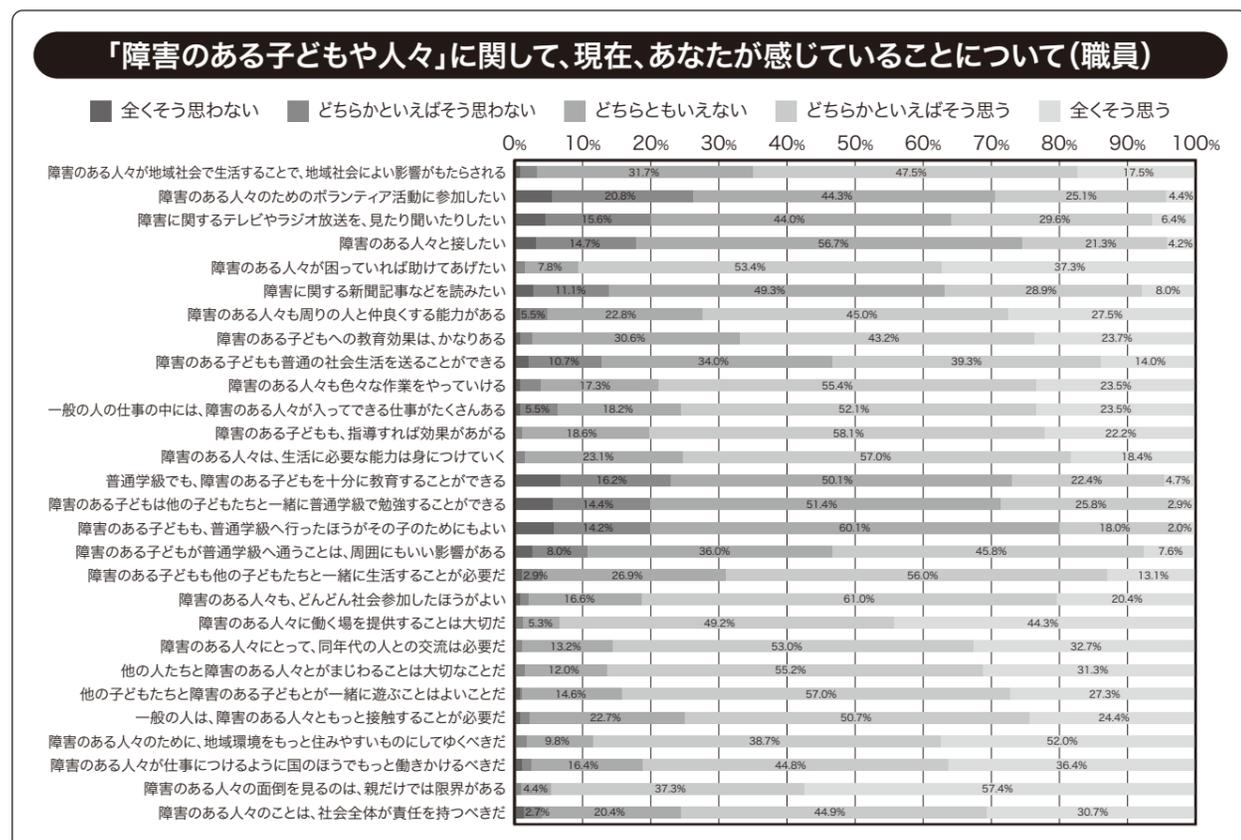
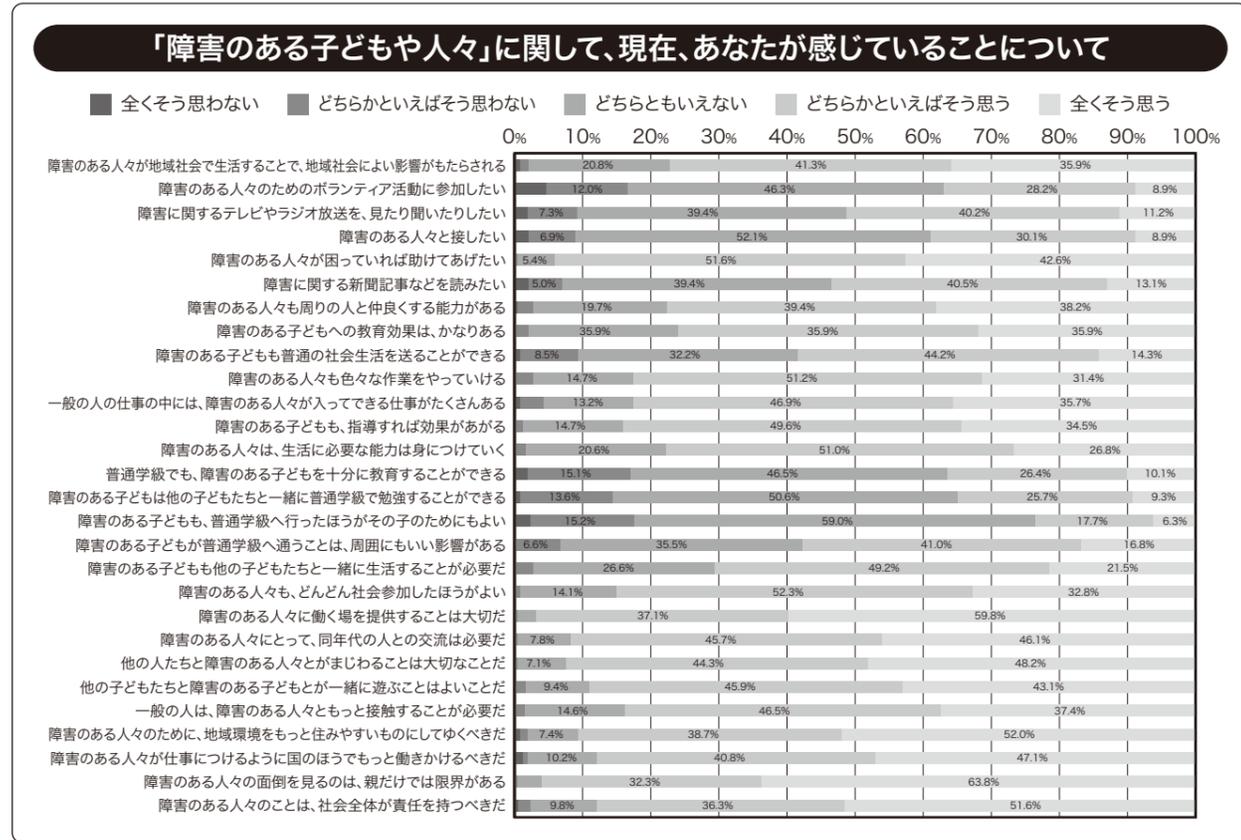
(2)年齢



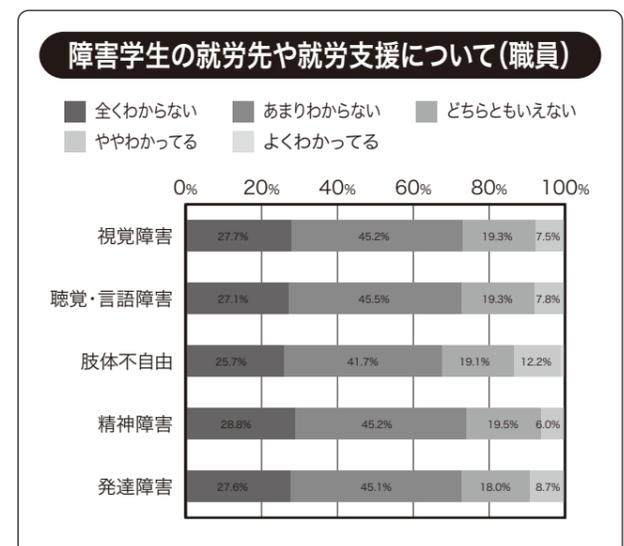
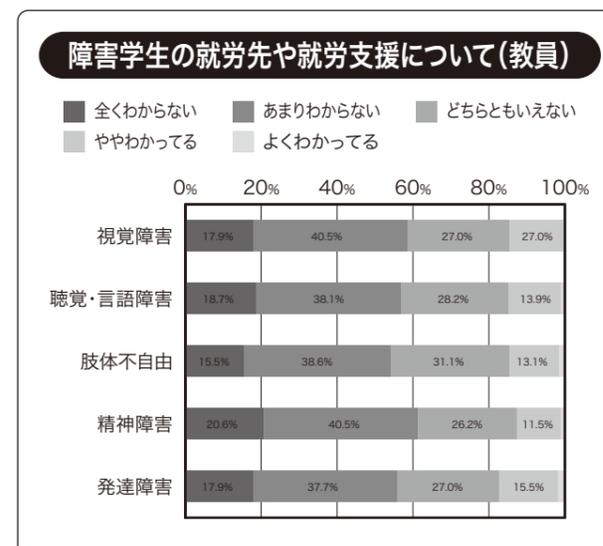
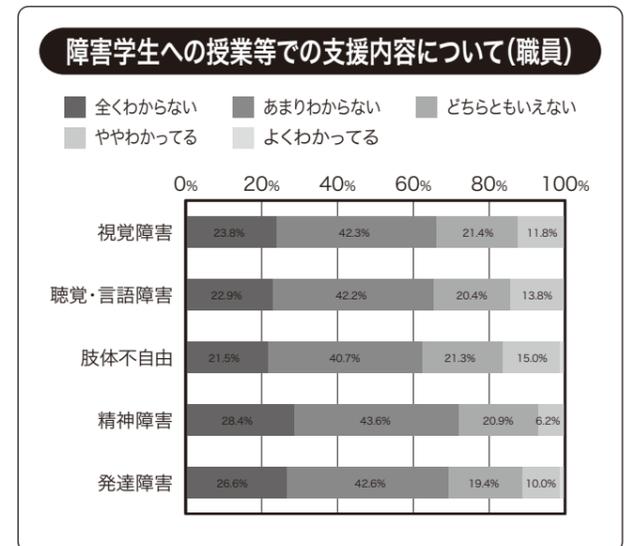
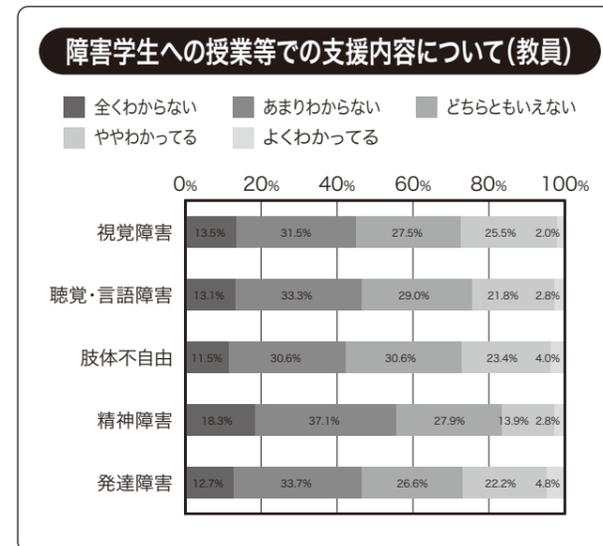
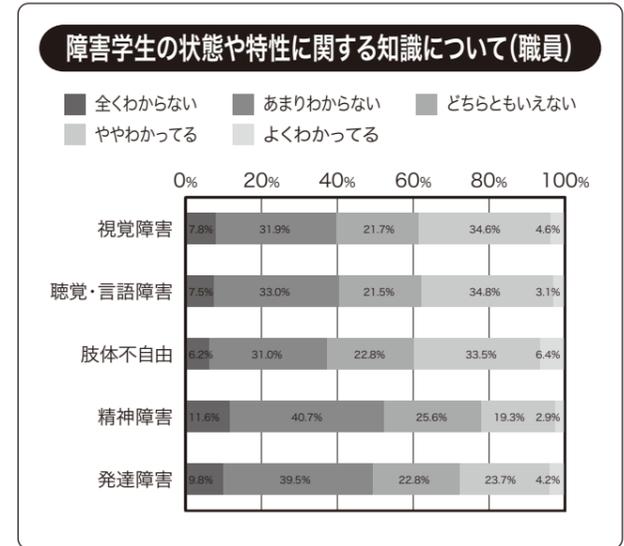
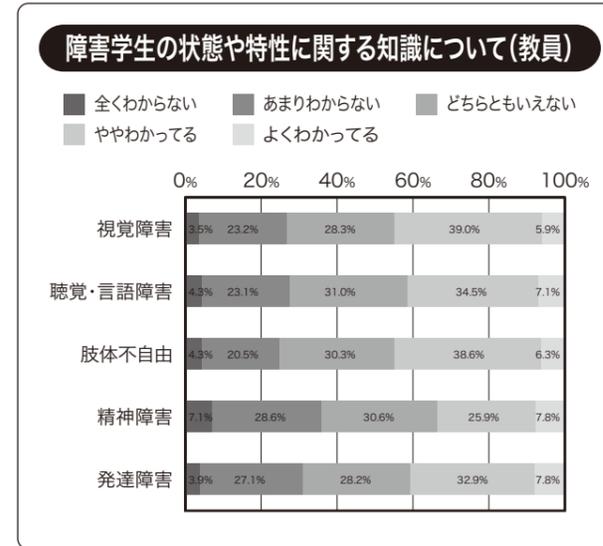
(3)職階



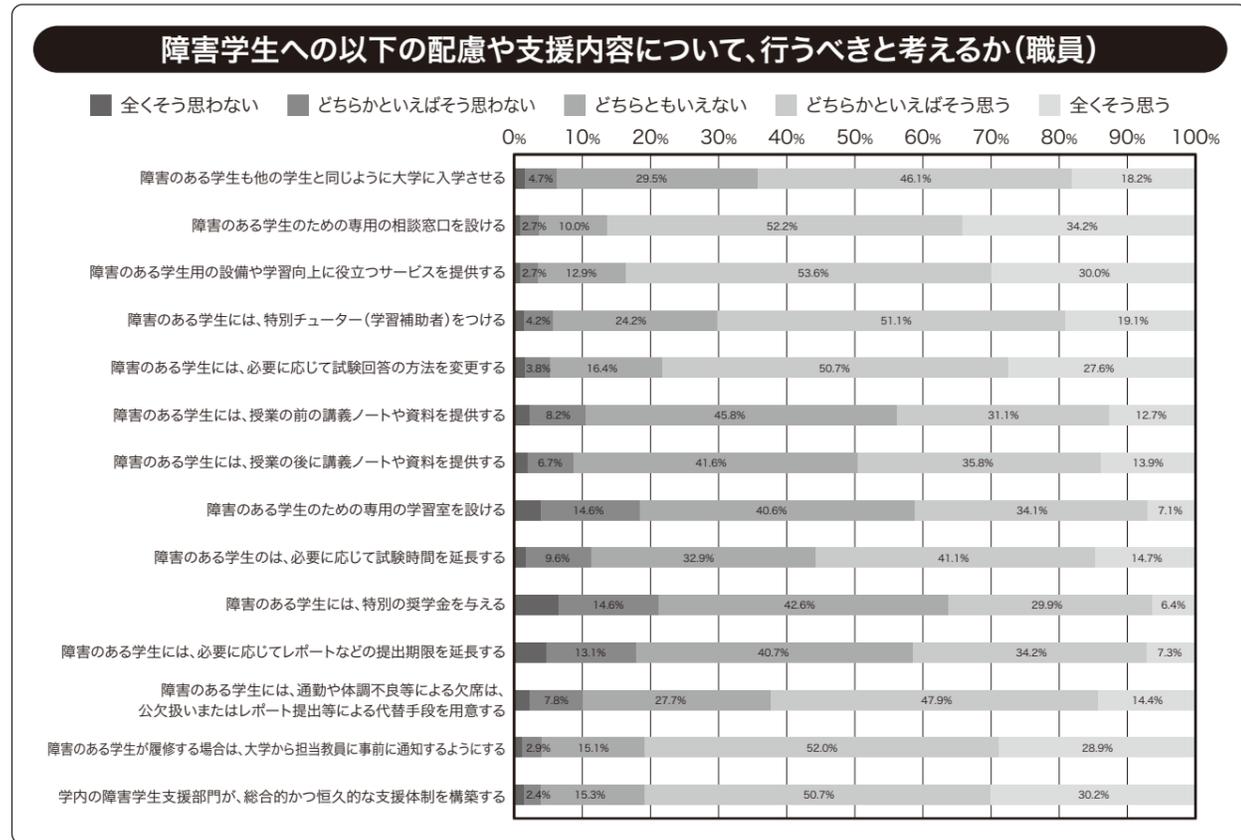
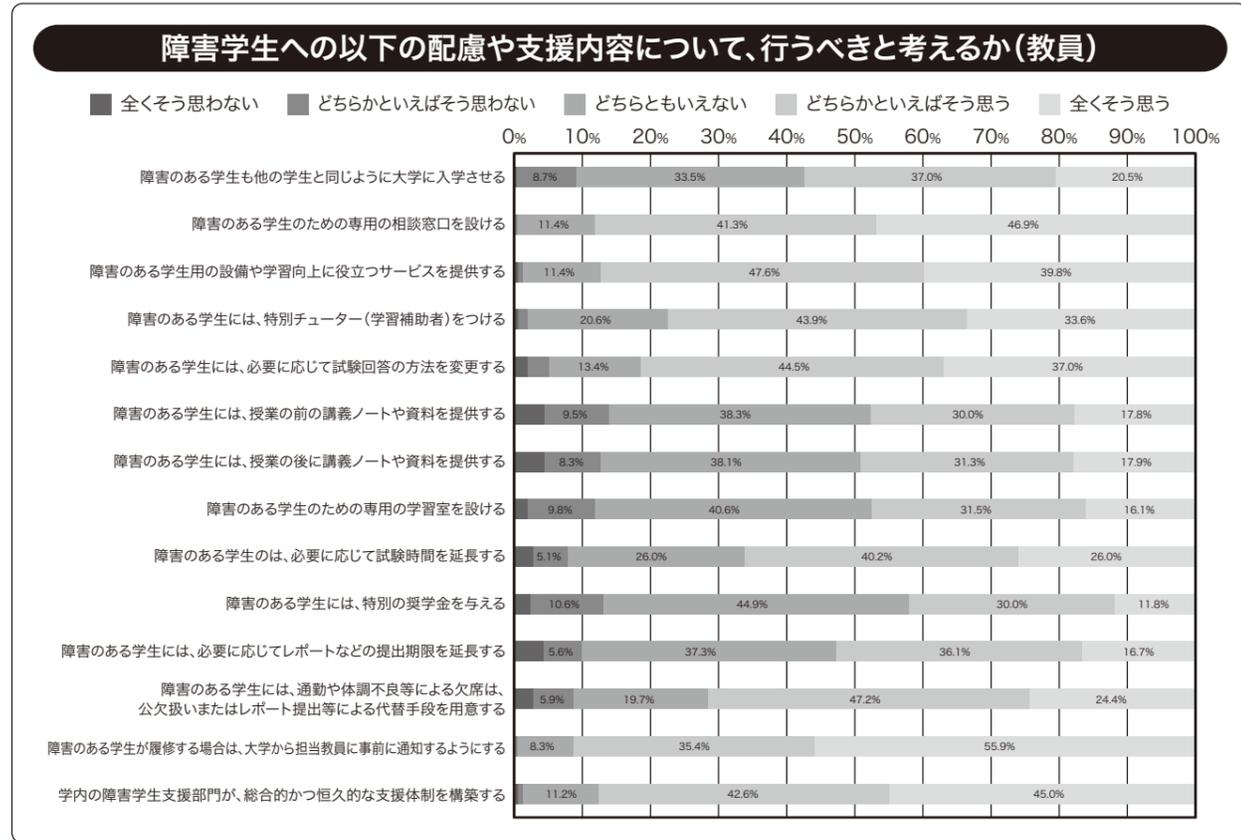
(4) 障害への理解



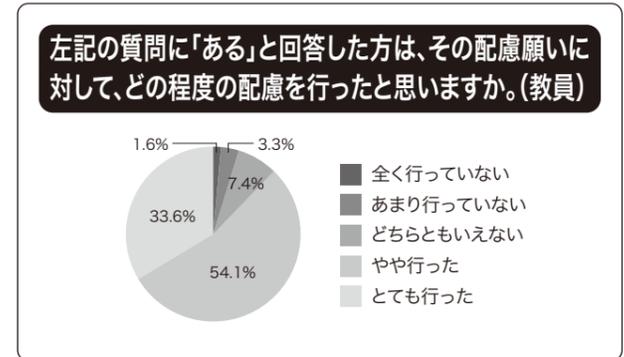
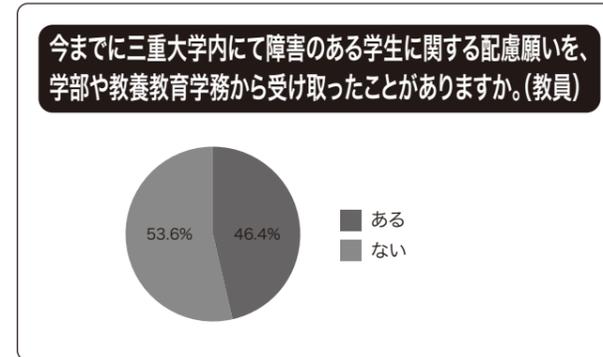
(5) 障害学生への知識



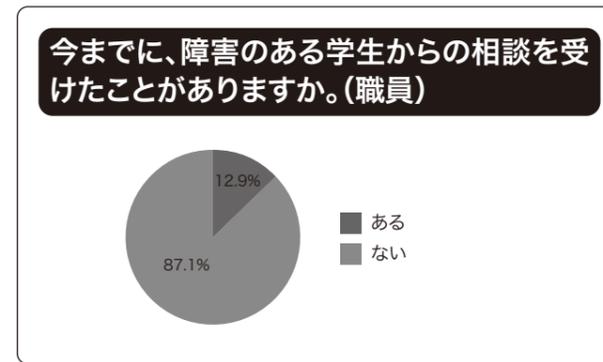
(6) 障害学生への配慮や支援内容についての意識



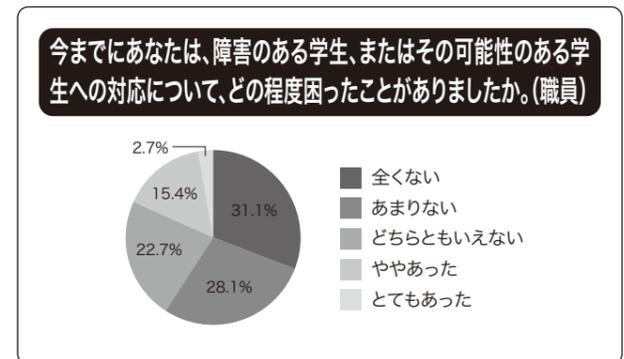
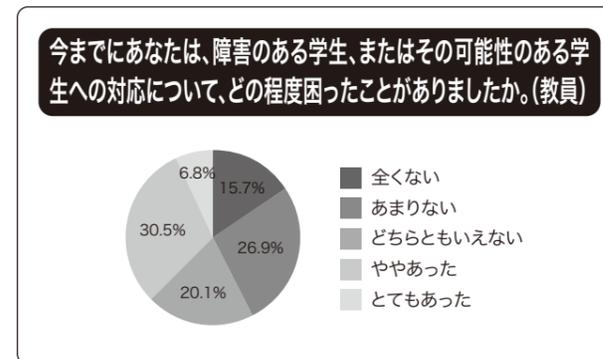
(7) 配慮願いの受け取りについて



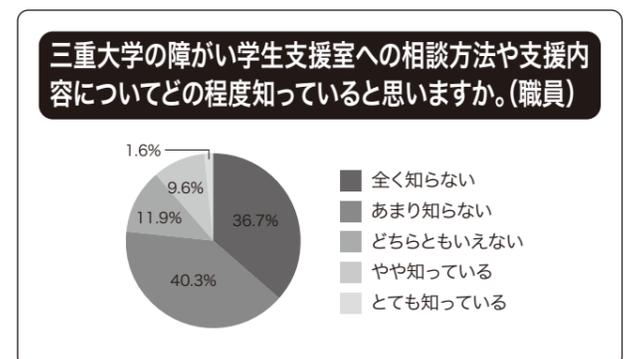
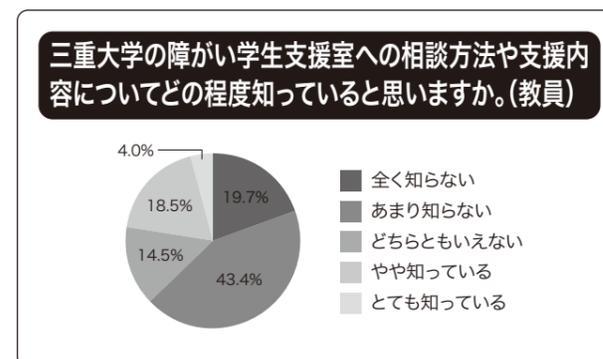
(8) 障害のある学生からの職員への相談



(9) 障害学生への対応への困り感

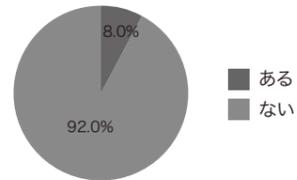


(10) 障がい学生支援室への相談方法や支援内容についての知識

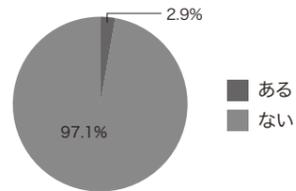


(11) 障がい学生支援室への相談

三重大の障がい学生支援室に、障がいのある学生について相談を行ったことがありますか。(教員)

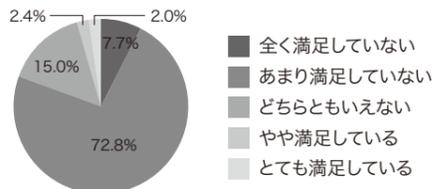


三重大の障がい学生支援室に、障がいのある学生について相談を行ったことがありますか。(職員)

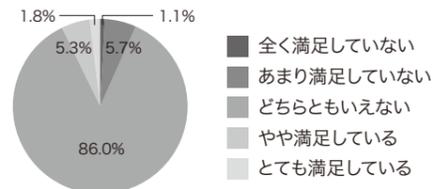


(12) 障がい学生支援室への満足度

あなたの三重大の障がい学生支援室の活動全般に対する満足度は、どの程度だと感じていますか。(教員)

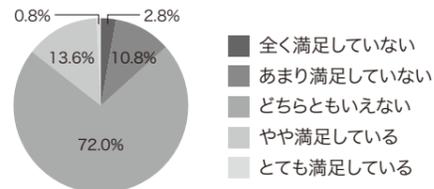


あなたの三重大の障がい学生支援室の活動全般に対する満足度は、どの程度だと感じていますか。(職員)

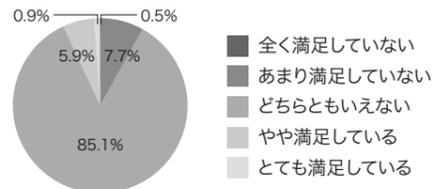


(13) 三重大全体での障害学生支援体制への満足度

あなたの三重大全体での障害学生支援体制に対する満足度はどの程度だと感じていますか。(教員)

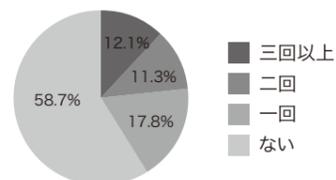


あなたの三重大全体での障害学生支援体制に対する満足度はどの程度だと感じていますか。(職員)

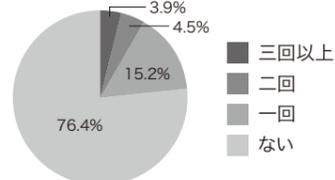


(14) 障害学生についての研修会やセミナーへの参加

今までに学内外において障害のある学生についての研修会やセミナーなどに参加したことがありますか。(教員)

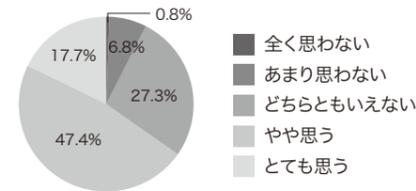


今までに学内外において障害のある学生についての研修会やセミナーなどに参加したことがありますか。(職員)

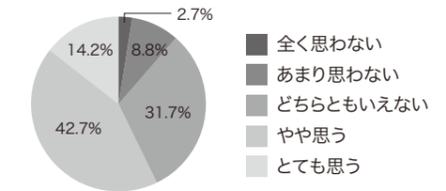


(15) 障害学生支援に関する研修会やセミナーへの参加希望

今後、学内において障害のある学生への理解や支援方法に関する研修会やセミナーがあれば、参加したいと思いますか。(教員)



今後、学内において障害のある学生への理解や支援方法に関する研修会やセミナーがあれば、参加したいと思いますか。(職員)



(16) 自由記述

「今後、三重大の障がい学生支援室に対して行ってほしい支援や取り組み等がありますか。」

(教員)

障害者支援に対する教員の意見は様々です。支援に関する活動を、広く知らせる努力は必要だと思います。

三重大の障がい学生支援室が行ってきた支援や取り組み等を発表する機会があってもよいかもしれない。

特に発達障害の学生は増えるもしくは既に多くいる可能性があり、大学での支援を強化すべきと思います。

障害が「ある」「ない」という二元化は難しいため、どの学生に対しても必要に応じて支援できることが望ましいと考えます。

障害学生と一般学生の交流について情報を発信してほしい。

障害についての知識、特性、対応などが分かるセミナーなどの開催。

息子が自閉と知的障害なので、大学における障害学生への取り組みは無論、障害者の自立支援などには大変興味があり、また自身の息子を通して、社会的な活動も実際に行っています。入学してくる障害学生への対応だけでなく、三重大全体として、障害者雇用をもっと充実させてほしい。

障がい学生に対する対応は、一般の講義(座学)では対応しております。しかし、実験・実習においては危険を伴う可能性もありますので、TAの配置や複数教員での対応を心がけてはおりますが、上手く対応できているように思えません。実際にどのような対応をすべきか、障がい学生の個人の特性に合わせたきめ細やかな対応方法をご教示頂ければ幸いです。また、グループでの学習を余儀なくされる実験・実習・PBL授業では、同じグループに配属される一般学生への影響を考える必要があり、その対応にも悩む点もあります。一般学生への配慮についても、ご配慮・ご教示頂ければと思います。

支援室ですべて対応しようと、あまり頑張りすぎない方がよいと思う。

発達障害の学生に対する見分け方、接し方など基本的な対応についてのセミナーなど。

教員も対応は努力するが、障害をもった本人が望めば大学内の専門員を必ずつけるべきである。また、専門員を積極的に雇用すべきである。

現場の教員、障碍のない学生に対するサポート。講習やったから終わり、違うルートで相談が来たから対応できないと言ったような本省対策のような対応なら、不要。

発達障害を持つ学生の入学は今後増えていくと思うが、現在の体制ではその受け入れ態勢が出来ているとは思えない。学生支援室の教員を増やして、発達障害がある学生がいた場合、一人一人その対応方法は異なると思うので、支援室の教員で密に対象学生と面談を行い、支援体制を作っていただき、教員や周りの学生に対するカウンセラーや対象学生にどのように対応すればよいかということを説明してもらいたいような機会を作って欲しい。

私が興味ある発達障害は、本人が自覚していない場合が多く、学生がカウンセリングを拒否すると教員としては手の施しようがない。何かが出来なかったら強制的にカウンセリングを受けさせるなど、教員が教育(講義や実習)以外で困らないよう大学としてルールを策定して欲しい。

すべての道路をバリアフリーにすべきと思います。特に、生物資源学部棟の南西方向の通路の舗装状況などは、早急に改善すべきと思います。

障がいのある学生と通常の学生が共存できる体制作りをしてほしいです。どちらか一方だけをサポートすることは、もう一方に対して不都合が生じることがあり、双方が歩み寄りお互いに尊重し合える人間関係の構築が重要ではないかと思います。

障がいがある学生がいたとして、その学生がどのような障がいを持っているのか、普通に説明してわかるのか、などその学生について事前に詳細な情報を得たい。

現在の入学制度の中で、受け入れた学生に対して、よくやっただいています。学生の多様性が広がることに賛成します。

ほとんどの教職員は障害者に対する知識が十分ではないと思われる。そのため、各回答者でイメージしている障害の度合いがマチマチであると考えられる。今回の質問内容について、想定される障害のレベルによって様々な回答が考えられ、回答し難かった。したがって、前提となる障害のレベルを定義した上で質問した方が良いように思われた。また、質問の仕方にも課題があるように思われた。例えば「障害のある人々も色々な作業をやっていける」という質問は「オールマイティに作業ができる」ように受け取れるが、それは事実上不可能であるため「障害のある人々も実施可能な作業がある」などとした方が良いと思われる。

支援体制や取り組みについての積極的な広報活動をお願いします。

对学生のみならず、対教員、対教務職員などの学内の教職員についてのFD・SDのようなもの開催をお願いしたい。また、学生の家庭環境についての取り組んでいただきたい(あるいは、家庭環境を含めた対応を望みます)

支援室の先生が障がいを持つ学生と私との間に入っていたいただいた時、大変助かりました。学生、教員双方に気をかけていただきました。

発達障害は本人が自覚していない、あるいは知られたくないといった場合もあり、対応がとてもセンシティブだと思いますが、支援室では教職員にどのような啓蒙活動を実施したりガイドラインを設けていたりしますか?現在の取り組み内容を十分理解できていないので。

スロープ、トイレなどの整備

障がいにも各種、各レベルがあり、その対応は画一的にはできません(なので、回答は基本「どちらともいえない」としました)。ケースによって、一般学生と一緒に過ごす機会をどんどん増やすべきケースがあり、その逆もあります。障がいの理由も考慮が必要です。潜在的に知的あるいは発達障がいと認定されるに至る可能性があっても健常児として育てた場合と障がいが増速してしまった場合があります。大学生の年代になってからのやりなおしは不可能ですが、本当に丁寧に対応するのであれば、そこまで踏み込まなければ、そしてケースによっては保護者や生活環境の指導まで視野にいれなければ教育はなりたちません。ただ、その場合、大学に求められる支援はどこまでなのでしょう。障がいのある学生への支援を手厚くして健常学生への教育がおろそかになったり、教員が病んでしまうようでは問題です。現在そちらに向かっていないか危惧しています。

普段の活動内容や支援の仕組みについて、教職員に定期的に案内する。新たに支援対象が加わった時は、学内に周知する。

障がい学生の就職支援体制をより充実したものとしていただきたいと思います。数年間にわたり、精神疾患や精神障害の学生を複数人担当しております。教員としては、精神疾患や精神障害そのものを治療できる力量がなく、また、ご本人の話全てを受け付けることのできる時間的余裕や体力はないというのが正直な実感です。教員の心身疲労の限界を超えるところがござります。カウンセラーの方や精神科医の方の数を増員し、学生だけではなく、教員も相談に伺うことのできる体制をより固めていただきたいと思います。また、現場で感じた問題とは、当該学生が医師やカウンセラーに障害あるいは疾患として認定されていない場合に、教員側としては術がなく、一方的に不安や疲労を抱えてしまうということです。当該学生を医師やカウンセラーに容易に繋ぐことのできる体制を整えていただきたく存じます。

差別に関してもっと学生に発信すべきだと思います。この間学園祭で性同一性障害やLGBTの当事者を揶揄うイベント「女装コンテスト」が開催され、パワハラやセクハラに該当するイベントまで発展した。LGBTや性同一性障害の当事者への差別は、結局身体や精神に障害を持つ当事者に対するいじめや差別を強く繋がっています。受動的だけではなく、主導的學生や学内のイベントなどにモニタリングする必要があります。

-
- ・ 学生支援室に対する全学的な協力体制が必要。
 - ・ 学生支援室、全学、学部との連携システムの構築が必要。

学生支援はある程度進んでいると思うが、教卓・教壇など、講師に障害がある場合について、配慮が足りない。教養教育事務所の北側から190番教室に抜ける廊下のドアの幅が70センチしか空かないので、電動車いすなどが通れない。変更してもらいたい。

日常の中で、障がい者の方に出会うと、障がい者の方がどのような支援を望まれているのかわからず、支援が必要なのかどうか、嫌がれる場合もあるのではないかと考えてしまう。大学の教育面での支援は積極的に行いたいと思っている。

アスペルガーなどの学生が入学してきた際の対応(早期発見、複数教員でどのように対応したらよいか)など 視覚・聴覚障害などはある程度想像で対応することができる気がするが、知的障害・精神疾患・発達障害は想像すら難しいと思います。

学生同士の相互サポートを支援できるようなしくみ。

通知が来ないちょっと変わった学生について、情報を得る場がほしい。知らなければ知らないで、関わりにならなくてよいという気持ちもあるが、授業運営上は、その人の特性(病状)がわかった方が対処のしようがある。

インターネット、AIが進んだ現在、従来型に加えて、新たな支援方法があるのではないかと。より良い支援を行うために、支援に加えて研究部門が必要だと思います。

障害を持つ配属学生がある場合、教員の想像力は限られるうえ、分野ごとに異なる配慮が必要とも思いますので、ある程度状況が想定された具体的な支援のメニューを知っておきたい、とも思います。たまたま、明朗な性格でうまく自分の希望を言える学生さんでしたが、そうでない場合などもあると思います。そのような場合には、実際はどうすべきか、といったことは思いもよりません。個別かつ具体的な相談ができるところがある、というのは重要と思いました。

グループ学習において発達障害をもつ学生への支援をどうすればよいかについて話を伺う機会があればと思います。

三重大学に勤めるようになってまだ2年目で、大学全体のことをまだよく把握していないため、障がい学生支援室があるということも知りませんでした。その他にも、学内の支援体制のことは全くと言っていいほど把握しておりませんので、機会があればどのような支援があるのか、教えていただきたいです。

障がい学生支援室の活動をよく知らなかったのも、活動についてもっと広報してもらえたら、より周囲の認識も変わってくるのではないのでしょうか。

情報発信

なんでも相談室の有効利用。多くの学生に、問題のないときに一度は訪れておいて欲しい。

特にありませんが、自分としては、障がい学生が受講すれば、きちんと対応していきたいと思っています。

(職員)

障がい学生支援とは少し異なるかもしれませんが…、学内に気軽にカウンセリングを受けられる体制を整えて欲しい。例えば、周りとうまくコミュニケーションが取れず、友人がいない・親の支援も期待できない・一人暮らしで孤立・段々と講義に顔を出さない、といった状況でメンタルに不調を来たしてしまう学生が、明るみにはでないけれども少なからず存在していると思います。自身では気づかないけど発達障害かもしれない。連絡が取れないまま留年してしまったり、最悪若い命を絶ってしまう人もいます。そうした事態に陥る前に、支援をしてあげられる仕組みを考えて欲しい。教員-学生の間に入って支援できるようにして欲しい。目に見える障がいへの支援はもちろん、こうした狭間にいる学生にも注目してほしいと思います。

そもそも学位を取りたいのか、ただ大学で勉強したいのかで受け入れ態勢を考えるべきではないかと。すべての障害学生を一般学生と同様に扱うことが一般学生の学習の妨げになる面があるなら、大学の性質としてそれは正しいことなのか疑問がある。ただ、聴講学生として受け入れるならば、受け入れるためのサービスは整えるべきと考える。

昨年度、発達障害の学生をテーマにした研修会に参加させて頂きましたが、とても勉強になりました。障害の内容ごとに研修会を開催してもらえると助かります。(障害の内容ごとに、職員としての対応方法が違うと思われるので)

三重大学における学生の障害者に対する基本方針の策定及び対応マニュアルの作成

障害者差別解消法について、大学の教育・業務の視点から法制度の概要や大学への影響をまとめた情報を発信して欲しい。

各障がいのケースにおける障がい者への具体的な対応方法について、セミナー等を開催し、一般の人にも広く周知していただけますと幸いです。

『視覚・聴覚・言語・肢体』障がいと『知的、発達、言語』障がいを同列に考えられない。前者は支援をすることで健常者と同じように生活することができると思えるが、後者は近くに居るだけで身の危険を感じる。できれば歩歩いてほしくない。

IR
・数的調査
・トレース(進学相談、入試、教養、専門、卒論、就職までの一連)
FD・SDの拡充

障がい者に関する講演会・セミナー

障害のある学生を支援することは大切だが、そのために障害学生支援室のスタッフを増加させる等しないと、職員が疲弊すると思う。障害か障がいか、文書でどちらを使用すべきか迷うので学内で共通の規程を作ってほしい。

当方も足骨折等を経験し、一時的に歩行不自由になったことがあるが、設備面への改善は重要だと思います。しかしながら、学業への支援については、あまりに優遇しすぎることは、「分かってほしい・知りたい・突き詰めたいから学ぶ」という意欲・姿勢へ悪影響になると思われ、事後での支援は重要と考えるものの、事前や最中での学業支援は余剰と考えます。

学生だけでなく、障害のある職員についても、対応する部署を作成する事が必要もしくは、障がい学生支援室で障がいのある職員も対応してもらいたい。現状の保健管理センターの支援体制では、全く不十分である。障害に対しての知識も、障がい学生支援室と保健管理センターでは、雲泥の差がある。障害のある学生の支援は手厚いと思うが、障害のある職員の支援が出来ていないので、周囲の職員に負担がかかり、業務に支障が出る。

学生生活の不自由さをなくすための取り組み(教室やゼミ・研究室、生協・図書館等を含む)全ての学内の設備を使用する際に、不自由であると感じている箇所を学生から指摘してもらおう。

障がいの程度によりどのレベルまで支援するかの対応が難しい。障がい者が重荷になるような過剰な特別扱いにならないようにしていただきたい。

学生時代に受講した障がい学生支援実践という講義(障がいを持った方のお話を聞く機会や、体験を通した講義でした)が非常に印象に残っているので、職員向けにそういった障がい者について理解を深めることができる研修などがあればうれしいです。

学生が有する障がいも多様となっている。できる限りたくさんの障がいへの理解と対応に関する研修の機会を企画してほしい。

ソフト面も大事ですが、まずはハード面を整えることが最優先のような気がします。

学生自身が障害を自覚していないケースがあるようです。発達障害の場合、本人が障害の自覚をしていない時は対応に困ります。障害の有無・種類・程度の把握が支援の基本だと思うのですが、自覚していない場合の対処方法を学生と接する機会ある教職員に教えてほしいと思います。

障がい学生支援については、就学支援、就職支援、卒後支援団体との連携構築により、継続した支援が必要と思います。学内においても、障がい学生の指導教員が中心となり、学内外から支援する仕組み作りが必要と思います。

障がいのある学生も、いわゆる「健常者」と差別されることなく学校生活を送れるべきだと思いますが、それは必ずしも「障がいのある生徒を誰でも普通学級に通わせる」とことイコールではないと思います。そこにはどうしても「健常者」の側の気遣いが必要になるからです。

もしもできる限り学生同士ができる限りお互いに気を使うことなく学生生活を送れることを目標とするのなら(障がい学生支援室だけでできることではないですが)、強いて挙げるなら大学全体をユニバーサル・デザインにすることでしょうか。

段差を少なくして、三重大学全体の建物をできるだけ統一感のあるキャンパスにすることによって、

1、視覚障がいや肢体不自由のある学生が校内を歩きやすくなる
2、精神障害や知的障害、発達障害などで変化に対応することが苦手な学生に恐怖を与えずに済む程度の効果は得られるか
と思います。

また、発達障害は外からは分かりづらいので、発達障害についての学習を小学生のころから行う必要もあるかと思います。

自閉症対策(支援等)を本人・周囲を含め、推進してほしい。採用も検討してみてもは。

障害学生と言っても、肉体的な障害(肢体不自由等)と精神的な障害(知的障害等)とは全く異なるのではないのでしょうか。両者を一緒にした質問には、回答に困ります。私の認識不足とは思いますが、入試を経て、三重大学に入学できたのは、それなりの学力があるからです。その者達に、知的障害や発達障害等とは理解できないです。

障害学生支援を「特別な学生」への支援ととらえず、できるだけ他の学生と同じように対応するほうが差別感がなくて良い。

障害を持つ学生に適切に接することのできる専門知識を持つカウンセラーの増員各学部へ配置されるのが理想

一般学生よりも「特別」扱いになるようなことはあまり無いほうがいいと思う。あくまでも、客観的に見て「支援」と思えるくらいの扱いになるべき。

授業をしている現場のところまで、学生の障害の状況などが伝わるような態勢を作ってほしいです。実験実習では、障害等がある学生が受講生にいと分からないでいると、知らずに危険な行為などをしてしまうことがあり、大変困ります。

身体、知的、精神それぞれの障害を抱えた人達と関わる仕事を経験しています。どんな障害を抱えていても、学習の場は与えられるべきと考えています。それぞれの障害に合わせた学習方法はあります。できるだけ学習の場を与えてあげてください。それが願いです。

三重大学の障がい学生支援室の活動について紹介されているサイトがあればお知らせいただきたい。それを拝見すれば具体的に何がわかると思われまますので、まずはそこからご案内下さい。

障害者に対する差別をなくす必要はありますが、特別優遇する必要はないと考えます。その人にとって、何が障害になっているのか、障害のない人同じように生活できるよう、合理的配慮とバリアフリーについて考えるべき。アンケート内容からは障害について関係なく優遇すべきだというような印象を受けました。

肢体不自由、視覚や聴覚障害、重度の知的の人達とは関わったことがないため、恥ずかしながらどのような事が問題になるのかもあまりイメージできておりませんでした。そして、その方達が大学にどのように関わって行くことが必要なのかもわかりません。そういった基礎的な事を学べる場所があればと思います。しかし、自分は学生と関わる機会が多いため、どちらかと言うと軽度の精神的、知的、発達の障害の学生(グレーと呼ばれる学生)と接することが多いです。なので、実用性を考えるとどうしてもその分野の先生からお話を聞かせてほしい気持ちもあります。これまで参加させていただいたセミナーでは、専門の臨床心理の先生やカウンセラーの先生達の講話、体験談や知識などを学べる機会が多くありました。そういった専門職の意見を聞ける場面はとても勉強になるのですが、あくまで大学内に臨床やカウンセラーの専門家が充実していないと解決できない事が多いです。できれば教職員がそのような学生に対応する場合、発作を起こした学生への対応、学生から相談を受けた際にどのような機関や部署に連絡をすればよいか、どういったサポートを受けることができるのかを具体的に知りたいです。

チューター活動を特定の学生のみが行うのではなく、多くの学生が活動できるよう何らかの形で報いることができるようにするとよいと思う。具体的には思い当たらないが。

障がい学生といっても障がいの内容や程度により対応の仕方が異なる。また地域社会、教育機関(義務教育機関と高等教育機関では異なる)、事業所によって対応や立場が異なり、このようなおおざっぱなアンケートは回答が難しい。もう少しテーマを持って意見を求めた方がよいのではないかと思う。まず、三重大学の障がい学生支援室がどのような活動をしているか、三重大学の教職員の目にとまりやすく広報してほしい。障害とせず障がいと表記するのなら、「障がい学生」と表現するのに問題はないのか疑問に思った。

障害の種類や度合いによって周りの人ができることに大きく違いが出てくるとおもいます。大学に入学したということは、本人も学習する意志があるのですから、その本人が不便を感じる部分を支援してほしいです。そのためには本人が学校の設備や支援についてどう思っているか把握して、不足している部分を補うことが大切だと思いますし、教員の理解も必要だと思います。他の学生とのコミュニケーションや情報交換が難しい方もいると思うので、いつも開いている窓口があって、気軽に相談できる人がいる環境が理想的だと思います。

障がい学生支援室の活動をアピールすべきだと思う。 (上記7・8・11の質問に対し、活動状況が全く分からない。)

IV 学生なんでも相談室

平成29年度 活動報告

1 相談・援助活動

(1) 来談者に関する統計

	新規相談受付						案内	Co.による 継続面接	その他の 継続対応	合計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計				
4月	3	5	2	0	0	10	136	38	32	216
5月	3	7	2	0	1	13	32	43	44	132
6月	7	9	2	0	0	18	38	34	45	135
7月	3	4	2	3	0	12	16	38	46	112
8月	3	3	1	3	1	11	8	22	43	84
9月	1	1	3	0	0	5	12	32	43	92
10月	4	5	2	0	0	11	26	42	58	137
11月	4	5	0	0	1	10	28	43	21	102
12月	6	3	0	0	0	9	20	38	33	100
1月	2	6	0	1	0	9	26	26	38	99
2月	2	3	1	0	0	6	24	31	28	89
3月	1	2	1	1	0	5	15	19	39	73
合計	38	51	15	7	3	119	381	406	470	1376

※数字はいずれも延べ人数を示す。

※「Co.」は心理カウンセラーを指す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内や比較的軽微な相談等、およびピアサポーターによる相談対応件数の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主にCo.による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

(2) ピアサポーターによる支援活動

①なんでも相談企画(新入生履修相談)

(4月5日、6日、10日;総合研究棟II1階)

②新入生交流会「お料理教室」(5月9日;ピアサポートルーム)

③キャリア教育科目に関する履修促進のための冊子制作(7月)

④プレゼンテーションに関する勉強会(8月1日、2月2日)

⑤CPS資格取得&SA業務説明会(10月17日)

⑥キャリアイベント『SNAP×ピアサポ「Work Vision」～働くとは何かを考えよう～』

(1月24日;メディアホール)

2 教育・広報活動

(1) 教育活動

①授業の担当(いずれも鈴木によるもの)

教養教育	前期	「ピアサポート実践」※副担当に森浩平講師(障がい学生支援室)
教養教育	後期	「こころのサポート」
教養教育	後期	「学生生活支援実践」
教養教育	後期	「ピアサポート実践」※主担当は森浩平講師(障がい学生支援室)
教育学研究科	前期	「学校臨床心理学特論演習」
教育学部	後期	「心理的問題解決論」

(2) 広報活動

①教職員研修(FD・SD)

人文学部FD

講演「不登校学生等の対応について」(平成29年9月13日)

②広報

- ・新入生に対する相談室PRカードの配布
- ・来談促進用ポスターの作成と掲示
- ・教職員を対象としたニュースレター(メールマガジン)の作成と配信

3 研究・研修・講演・地域連携

- ・公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師
テーマ「カウンセリング」

平成29年8月21日 (鈴木)

- ・三重県立看護大学 ハラスメント防止等に係る研修会 講師
テーマ「ハラスメントに係る相談に対する理解」

平成29年11月8日 (鈴木)

- ・日本学生相談学会 第55回全国学生相談研修会 講師
分科会A3「学生相談の基礎と実践I」

平成29年12月17日～12月19日 (鈴木)

- ・岐阜大学 ピアサポート演習(講義) 講師
テーマ「三重大学における取り組み」

平成30年1月16日 (鈴木・ピアサポーター学生(岡本、松井))

- ・高田短期大学 共通FD・SD研修会 パネリスト
テーマ「県内学生相談室の現状と課題」

平成30年2月23日 (鈴木)

平成29年度 スタッフ

室長	鈴木 英一郎(学生総合支援センター 講師)
カウンセラー	川島 一晃(非常勤) 藤川 和(非常勤)
	牧野 勢津子(非常勤) 早川 史乃(非常勤)
インターカー	浮田 めぐみ(事務補佐員)

ぴあのわ(全国大学ピアサポーター合同研修会)の運営について

●「ぴあのわ」の意義・意味

「ぴあのわ」は、全国の大学のピアサポート組織・団体に所属する学生、およびその世話役を担う教職員が一同に会し、交流と研鑽を行う研修会である。2008年以来、毎年継続的に実施されており、2018年には第11回を開催するに至った。その規模についても、第1回は名古屋工業大学、名古屋大学、三重大学の近隣3校による交流会レベルにすぎなかったものが、回を重ねる毎に参加校の数が増え、今回の第11回に至っては、全国各地より31大学(33団体)、学生・教職員合わせて総勢213名が参加する大イベントとなった。

また、今回の第11回では、第7回(2014年開催)以来、再び本学のピアサポーター学生委員会が幹事校を担当することとなった。とはいえ、2014年当時とは所属学生が完全に入れ替わっているため、ほとんど手さぐりで一から準備を積み上げていく必要があった。本稿では、以下にその準備の過程や当日のプログラム内容を記すとともに、実際に企画運営に携わった本学ピアサポーターの学生たちのコメントも材料としながら、本イベントを振り返ることとした。

●「ぴあのわ」企画運営(幹事校)としての準備・役割

- 2017年2月 ・「ぴあのわ2017」(@東京大学)にて、本学の次回幹事校担当が決定した。
- 2017年6月 ・学生総合支援センター会議にて、「ぴあのわ2018」の開催日時(3月17日-18日)及び会場(名古屋工業大学)が決定した旨を報告した。
- 2017年7月 ・加藤良洋くん(生物資源学部4年)を委員長とする「ぴあのわ2018学生実行委員会」を本学ピアサポーター学生委員会内に設置し、以後この委員会を中心に、企画の検討を進めるよう指示した。
 - ・「ぴあのわ」参加校への連絡を目的としたメーリングリストを設定した。
- 2017年10月 ・第1号通信を全60大学に郵送した。同時に、Web上での参加申込み受付を開始した。
- 2018年2月 ・参加申込みのあった大学(団体)に対して、第2号通信を配信した。加えて、確定参加者リスト、及び各大学(団体)の活動内容を記載したフライヤーの提出を各参加予定校に依頼した。
 - ・学生総合支援センター会議にて、準備に関する進捗状況を報告した。
 - ・実行委員会(ピアサポーター)の学生7名と鈴木とで、会場である名古屋工業大学を訪問し、先方の関係教職員への挨拶及び使用する教室等の下見を行った。
- 2018年3月 ・「ぴあのわ2018」を実施した。本学からは学生14人、教員3名が参加した。
 - ・学生総合支援センター会議にて「ぴあのわ2018」の実施報告を行った。

●「ぴあのわ2018(第11回全国大学ピアサポーター合同研修会)」のプログラム概要

◎2018年3月17日(土)

1. オープニング(幹事校挨拶・趣旨説明など)
2. プログラム I【活動体験ワークショップ】

下記の8大学(9団体)に依頼し、各校(団体)の普段の活動内容や研修内容を体験することができるワークショップを実施した。

- *「ランゲージコーナー」体験(北海道大学)
- *「話の聴き方ロールプレイ」体験(東京大学A(本郷キャンパス))
- *「メンタルヘルスに関する研修」体験(東京大学B(駒場キャンパス))
- *「学サポ処方箋」体験(名古屋大学)
- *AIの手法を応用した活動理念づくり(三重大学)
- *学生の自信をエンパワーする「強み」発見ワークショップ(皇學館大学)
- *接待プランを考えよう(追手門学院大学)
- *「ミーティング」体験(松山大学)
- *「人間関係づくり・仲間づくり」活動体験(神戸親和女子大学)



3. プログラム II【テーマ別分科会】

参加者を下記の5つのテーマで分けて、それぞれディスカッションを行った。

- ① SNS、メールを活用した広報について
- ② イベントの集客について
- ③ チームワークについて
- ④ ピアサポ初心者集
- ⑤ ピアサポート活動のマネジメント(教職員向け)

また、上記テーマによるディスカッションの後、大学(団体)毎に、各分科会で得た情報の共有を行った。

◎2018年3月18日(日)

1. プログラム III【トークセッション】

本学ピアサポーター学生による司会の下、下記の2テーマについてのトークセッション(シンポジウム)を行った。

テーマ① ピアサポート活動に対する“思い”

話題提供: 東京大学、名古屋工業大学、北海道大学、追手門学院大学の各ピアサポート団体の代表学生

テーマ② ピアサポート活動の“これまで”と“これから”

話題提供: 名古屋工業大学、東京大学、皇學館大学のピアサポート活動に関わる各教員

2. クロージング(次回幹事校挨拶、閉会の挨拶など)



●企画運営に携わった本学学生の感想

*私は、分科会担当とカメラ係をしました。人前で話すことがとても苦手で、当日もすごくあがっていたのですが、他の委員会メンバーや先輩方のフォローもあって、何とか当日を乗り切ることができました。大勢の前で話す機会を頂けたことは、自分にとっていい経験になったと思います。

(人文学部文化学科2年 安藤萌)

*自分が担っていた仕事は2日目の司会で、壇上から参加者に向けて話をしました。自分で原稿を一から書くことは難しく、敬語の使い方や口調等先輩方にも確認いただきました。中心になって企画運営を進めていた4年生の先輩を見て、今後の学生生活では何を得られるのかということに学べた気がします。

(人文学部文化学科1年 鈴木翔也)

*準備時は、リーダーの先輩が全体を見つつスムーズに指示ができるよう、企画毎にサブリーダーを決めて話し合いを続けていきました。当日はトラブルがないか巡回する等、細かい仕事を心がけました。少し先を予測して動くことが重要と感じられたので、これからのイベント企画の際にも役立つのではないかと思います。

(教育学部2年 松井利咲)

●最後に

どの大学も、個別具体的な活動内容に関するテーマから、そもそも「大学ピアサポート活動とは何か」といった根本的なテーマまで、ピアサポート活動の中で様々な課題や葛藤に直面している。結果的には、いずれも各々の大学がその持ち味を活かしつつ自前で解決を模索するしかないのであるが、それでも、全国の仲間(ピア)同士での交流は、その解決のためのヒントやエネルギーを得る機会となっている。よって、この「ぴあのわ」は、こうしたいわば「互いのピアサポート活動をピアサポートする場」として、今後も重要な役割を果たしていくことであろう。また、学生の感想からは、そうしたイベントをピアサポーターである学生自らで取り仕切るという経験自体が、教育的観点から見ても貴重なものとなっていると推察できる。以上より、引き続き「ぴあのわ」は、学生の力を生かしながら継続的に開催されていくことが望ましいと考える。



◆ 目次 ◆

1. 相談室利用状況から
2. 若年層のカップルにおける暴力の問題(いわゆるデートDV)について
- 3.【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)
- 4.【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言!
5. お知らせ

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、大変ありがとうございます。2012年度より当相談室ではニュースレター「学生なんでも相談室ニュース」を発行しております。相談室の利用状況や学生対応をしていただく際に有用な情報などを定期的にご紹介していきたいと考えております。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、年間に1、2回程度の発行予定ですので、ぜひご高覧いただければと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

1 相談室利用状況から

●教職員からの延べ相談件数(カッコ内は実数)

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	計
平成26年度	36(16)	38(12)	35(10)	43(9)	152(47)
平成27年度	50(23)	49(21)	43(16)	26(5)	168(65)
平成28年度	28(8)	12(6)	40(12)	42(10)	122(36)

当相談室は、学生の日々の生活における困り事や悩み事への相談対応を主な業務としておりますが、学生の対応に際し、お困りになられている教員、職員、学生の保護者の方のご相談も承っております。

上記の表は、直近3年間における本学教職員の方からいただいた学生対応に関するご相談の延べ件数、およびその実数を示したものです。こうして見ますと、年度や時期によりバラつきもございますが、四半期毎に延べ数で40件前後、実数ベースでもおおよそ10名前後の教職員の方からご相談をいただいていることが分かります。つまり、教職員の方からも、ほぼ毎週3～4件のご相談をいただいていることになり、実数ベースでも週に1件は新たなご相談をいただいているという計算になるわけです。

近年の傾向として、エネルギーやストレス耐性が低く、なかなか独力で問題を解決することができないでいる学生をよく見受けられます。このような学生に対しては、その学生を取り巻く様々な関係者同士が、「援助資源」として互いにきちんと連携し機能していることが、対応をととても楽にしてくれます。

先生方におかれましても、対応に苦慮しておられる学生案件をお持ちでしたら、遠慮なく当相談室までご相談くださいませうお願い致します。

2 若年層のカップルにおける暴力の問題(いわゆるデートDV)について

「デートDV」とは、主に夫婦間における暴力を指す「DV(ドメスティック・バイオレンス)」という言葉に対し、主に若年層のカップル間で発生する暴力の問題を指して使われるようになった言葉です。このような言葉が生まれたことから分かるように、男女間における暴力は夫婦間だけの問題ではありません。内閣府による「男女間における暴力に関する調査報告書」(内閣府、平成27年3月)によれば、男性との交際経験のある女性の19.1%、つまり約4人に1人が、これまでに交際相手からの暴力、いわゆるデートDVの被害を受けた経験があるという主旨の回答しています。そして、DVがそうであるように、デートDVもまた、殴る・蹴るなどの身体的な暴力だけを指しているものではありません。交際相手に「他の異性と会話をするな」などと命令したり、携帯電話の着信履歴やメールのチェック、交友関係や行動の監視など、相手の気持ちを考えずに、自分の思いどおりに支配したり束縛したりしようとする態度や行動も、デートDVの一種と考えることができます。また、デートDVがエスカレートすることで、ストーカー行為や暴行・傷害といった犯罪行為に繋がるおそれもあります。

○デートDVの例

- ・携帯電話の着信履歴やメールをチェックする。(一方的に相手のプライバシーに入り込み、相手の人間関係を制限する)
- ・相手に対して、「ばか」などと傷つく呼び方をする。
- ・自分の予定を優先させないと、無視したり不機嫌になったりする。(相手の気持ちや都合を考えず、自分と一緒にいることを無理強いする)
- ・性行為を強要する。
- ・思いどおりにならないと、怒鳴ったり責めたり脅したりする。(相手を精神的に追い詰めて自分に従わせようとする)

大学生にとって、夫婦間のDVやストーカーといった言葉の認知度は高く、またそれが問題であるという意識も高いようですが、それに比べて、「デートDV」の方の啓発は遅れていると言わざるを得ません。よって、たとえ交際相手から実際に何らかの被害を受けていたとしても、その被害者の多くは、むしろ自分を責めたり、一人で解決すべきこととして我慢をしていたりしがちです。また、自身が交際相手との間でこのような状況になれば、勉強や研究活動にエネルギーが向けられない等、当然学生生活への影響も無視できなくなるでしょう。実際、当相談室でも毎年いくつかこのような相談を受けることがあり、来談学生とその対応について検討するとともに、異性との交際に関する来談者自身の意識の持ち様についても話題として扱っていくこととなります。

先生方におかれましては、ご自身の指導学生等からこうした相談を受けられた際には(またそれは、こうした問題で悩んでいる友だちがいるという形の相談かもしれません)、学生なんでも相談室や下記に掲載いたしました外部相談窓口での相談をお勧めいただければと存じます。

○デートDVについての相談を受けている三重県内の主な窓口

- ◆三重県女性相談所(三重県配偶者暴力相談支援センター)

<http://www.pref.mie.lg.jp/JOSOU/HP/>

- ◆三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」(女性の相談員による女性のための電話相談)

<http://www.center-mie.or.jp/frente/consult/phone.html>

- ◆DV相談ナビ

全国共通の電話番号から相談機関を案内するサービスで、発信地等の情報から最寄りの相談機関の窓口へ電話が自動転送されます。

(電話)0570-0-55210

○若年層を対象とした「デートDV」の予防啓発用教材

「人と人とのよりよい関係をつくるために―交際相手とのすてきな関係をつくっていくには」(内閣府男女共同参画局)

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/violence_research/yobou/kyozai.html

※気になる学生がいましたら、必要に応じて適宜プリントアウトしてお渡しいただければと存じます。

参考：Webサイト 政府広報オンライン 暮らしに役立つ情報 パートナーや恋人からの暴力に悩んでいませんか。

一人で悩まずお近くの相談窓口にご相談を。(平成28年12月9日)

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201411/1.html#anc05>

3 【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)

連載企画として、毎回「学生対応ガイドブック(第2版)」(三重大学学生総合支援センター、2009)より、先生方が日常的に学生対応をされる際のご参考にしていただけたら幸いです。

◎保護者に連絡・相談する必要がある時

〈事例〉

担任をしている1年生のAくんについて。成績表配付と今後の履修指導のためにメールで呼び出したが返事もなく、結局、予定していた日には顔を見ることができなかった。心配になって、他の同級生などにも話を聞いてみると、「しばらく顔を見ていないので自分たちも心配している。携帯電話に連絡を入れても繋がらない。」とのこと。Aくんは自宅から通学しており、両親や祖父母と同居しているらしいことは以前に聞いている。

〈対応と経過〉

再度、当該学生の携帯電話にメールや電話をするも応答が無いため、自宅へ電話して母親と話した。事情を伝えたところ、母親も、ここ数ヶ月は大学に行けていないのではないかと感じていたようで、心配していたとのことであった。また、最近では、時々近くの本屋などに出かける以外は自室で過ごしていることが多く、どう接してあげたら良いのか分からなくなっていた、とのことであった。

そこで、まずは担任として今後の履修計画について一緒に相談したいと考えている、という旨を母親からAくん伝えてもらうこととし、一人で大学に出て来るのが難しいようなら、母親も一緒に来てもらうことを提案した。後日に、Aくんは母親に連れられて相談に訪れ、ある科目に対して理解がなくなってしまったことを契機に授業に出るのが億劫になってしまったこと、それが他の科目にも連鎖して気がついたら不登校状態になってしまっていたことなどを語ってくれた。担任からは、まだ十分に追いつくことも可能であると説明し、母親にも協力してもらいながら、まずは無理なく参加できる授業から継続的に出席する方針で考えていくことを約束した。また、「味方を増やす」という意味から、学内の援助組織(学生なんでも相談室や保健管理センター)でも相談してみることを勧めた。母親も、担任からの言葉に安心した様子であった。

〈解説〉

①保護者の方との連携を検討する判断基準

学生が、自らの力で自身に降りかかる様々な問題に取り組み乗り越えていくためには、本人に元々問題解決に必要なある程度の準備が整っていることが前提となります。「直面している問題が当該学生の持つ対処能力やストレス耐性でも対応できうるものか」、「当該学生は、他の誰か(サークルやバイト先の仲間、他の教職員など)と社会的な繋がりを持っているか(本人の周囲に援助資源となりうる環境があるか)」という視点から検討し、それぞれの要素が低く準備が十分でない場合、保護者への連絡や他部署との連携について積極的に検討する必要があるでしょう。事例のように、保護者との間でも適切な繋がりを持つことができれば、「自分には家族の支えがある」といった安心感を得られるなど、学生本人にとっても有効な援助資源として機能して下さることが多いと考えます。

②学生のプライバシーや秘密保護との兼ね合い

学生の状況や成績など、学生本人のプライバシーや秘密保護という視点から考えると、保護者とはいえどこまで話して良いのだろうか、と迷ってしまうものです。基本的には、やはり学生本人の了承を取った上で(納得のできるような説明を行い、伝える内容についても本人の希望に配慮した上で)行う必要があるでしょう。

とはいえ、事例のような状況であれば、本人の了承を取ることが非常に難しいのも事実です。そういった場合には、たとえ本人の了承が取れない段階でも、大学側の安全配慮義務(学生が安全に学生生活を過ごせるように大学側が必要な配慮をしなければならない、という義務)という観点から鑑み、必要に応じて「最近〇〇くんの顔を見ていないので心配になって連絡させていただきました。何かご存知の事があれば、是非教えてください。」などといった形の連絡を、保護者の方に対して行うこともできるでしょう。その他にも、何らかの精神疾患の可能性や自傷他害の恐れが考えられる場合などは、例外的に早急な対応が必要となることもあります。

一方、保護者の側から教員に対して相談を持ち込まれることもあるでしょう。中には「子どもには内緒で…」と言われることもあります。この場合も判断に迷うところではありますが、その保護者の方の不安や戸惑いを丁寧に聞くことをまずは優先して、その後、徐々に学生の了解のもとで対応が進められる方向性を考えていけると良いと思います。

③教職員の側も連携が大事

緊急度の高い状況に直面すると、個人で冷静な判断をすることにはどうしても限界があります。事態が深刻であるほど、複数の教職員とチームになって対応するようにした方が良いでしょう。対応に迷われた場合には、各部署に固有の支援システム(学生系委員会や学生なんでも相談室分室など)をご利用いただいたり、学生なんでも相談室や保健管理センターなどにご相談ください。

※この項は、三重大学学生総合支援センター(2009)「三重大学学生対応ガイドブック」p.32-35. に掲載された内容に一部加筆修正を行ったものです。

4 【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言!

連載企画として、毎回「先生からこんな言葉をかけてもらったのが嬉しかった」、「あの時の先生のこんな言葉で支えられた」というような本学における学生の体験を、ピアサポーター学生委員会の協力のもと収集して、順次紹介しております。

◎「大切なのは英語の力ではなく、研究の内容とそれをどうやって伝えるかだよ」

【理由】

海外での研究発表の機会をいただいた際、英語での発表に不安を感じていた私に、先生がかけてくださった言葉である。英語の発音、文法、単語ばかりに気を取られ、自分の研究の魅力に気づくことができなくなっていた。しかし、研究発表において、日本語でも英語でも関係なく、研究内容に自信を持ち、それをきちんと伝えることこそが大切なのだということを教えていただき、気が楽になった。さらに、今後も、発表の際には、独りよがりな聴衆をおいていくようなものではなく、伝えることを大事にした発表をしようという自分の中での目標ができた。(学部4年生)

⇒学部4年生にとって、学会での発表、しかもそれが海外での英語による発表となれば、緊張するでしょうし、間違えないように事前にしっかりと準備をしておこうと考えるのは当然のことでしょう。

しかしながら、そうした緊張のあまり、却って事の本質を見失ってしまう、ということは若い学生にとってはよくあることかと存じます。そんな時は、先生方のご経験なども交えて、「本当に大事なことは何か」を学生自身が気が付けよう、優しくお声掛けをいただけましたら幸いです。

5 お知らせ

★学生なんでも相談室は「学生」だけが相談できる場所、ではありません！

もちろん、三重大生の日々の生活の中で起こる困りごとや悩みごとの相談がメイン業務ではありますが、学生の対応に際し、お困りになされている教員、職員、保護者の方のご相談も承っております。どうぞ気軽にご利用ください。

★学生理解、または学生対応に関する各種講演、FDも承っております。

これまでも、学生対応に関する総論的な留意点の解説をはじめ、不登校、発達障がい、留年を繰り返す学生、ハラスメント問題等のテーマでの講演のご依頼を各部局からいただいております。ご用命がございましたら、学生なんでも相談室までご連絡ください。

◆このメール内容についてのお問い合わせはこちらまでお寄せください。

E-Mail : sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このメールに掲載されている全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright(C)2017 三重大学学生総合支援センター 学生なんでも相談室. All Rights Reserved.

学生なんでも相談室ニュース Vol.8

2018/3/26発行

◆ 目次 ◆

1. 相談室利用状況から
2. 【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言！
3. お知らせ

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、大変ありがとうございます。2012年度より当相談室ではニュースレター「学生なんでも相談室ニュース」を発行しております。相談室の利用状況や学生対応をしていただく際に有用な情報などを定期的にご紹介していきたいと考えております。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、年間に1、2回程度の発行予定ですので、ぜひご覧いただければと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

1 相談室利用状況から

●今年度(平成29年度)の教職員による相談室利用状況

	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
延べ数(実数)	26(15)	23(6)	40(9)	19(4)

※2月末日現在の数字です。

上記の表は、今年度の教職員による相談室の利用状況です。先生方からは、主に不登校状態にある学生への対応について、あるいは、学生間の人間関係トラブルへの対応について、等といったご相談についてうかがうことが多いです。

悩んでいても相談室に自ら行くことが出来ない学生や、そもそも大学に出て来られない学生といったケースへの対応では、特に先生方や学務系職員の方、場合によっては保護者の方も含め、周囲の関係者による連携や協働の体制が欠かせません。今後ともどうぞご協力いただけますよう、よろしくお願い致します。

2 【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言！

連載企画として、毎回「先生からこんな言葉をかけてもらえて嬉しかった」、「あの時の先生のこんな言葉で支えられた」というような本学における学生の体験を、ピアサポーター学生委員会の協力のもと収集して、順次紹介しております。

◎「期待している学生には、ついアツくなって厳しくしてしまうんだよね。」

【理由】

いつもゼミで発表についてこっぴどく突っ込まれ、落ち込むことが多々あった。しかし、ある日研究室で先生とお話していて何気なく発された上記の一言で、ゼミでの厳しいご指導に心から感謝し、素直に受け止めることもできるようになった。(修士2年)

⇒ある学生が、先生との日常会話の中で経験した一コマだそうです。おそらく多くの先生が、実際に口にしないまでも、同様の思いで学生の指導に当たっておられることと想像しますが、やはりその思いをきちんと伝えてもらえる、学生には嬉しいようです。

もちろん、このような思いをわざわざ口にするのは苦手である、または無粋である、と感じられる先生もおられるかと存じます。確かに、無理することなく、各先生方の個性を生かした学生対応をそれぞれ展開いただくことも重要です。しかしながら、一方で「今の学生は厳しくするとすぐに潰れてしまう」と感じておられる先生もおられるかと存じます。

そんな時は、可能な範囲で“誉めて(認めて)あげる”場面を少し分かり易く作ってあげることによって、より良い関係を作っていくやすくなるのかもしれない。

3 お知らせ

★学生なんでも相談室は、学生だけが相談できる場所、ではありません！

もちろん、三重大生の日々の生活の中で起こる困りごとや悩みごとの相談がメイン業務ではありますが、学生の対応に際し、お困りになされている教職員、保護者の方のご相談も承っております。どうぞ気軽にご利用ください。

★学生理解、または学生対応に関する各種講演、FDも承っております。

これまでも、学生対応に関する総論的な留意点の解説をはじめ、不登校、留年を繰り返す学生、ハラスメント問題等のテーマでの講演のご依頼を各部局からいただきました。ご用命がございましたら、学生なんでも相談室までご連絡ください。

◆このメール内容についてのお問い合わせはこちらまでお寄せください。

E-Mail : sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このメールに掲載された全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright(C) 三重大学学生総合支援センター 学生なんでも相談室. All Rights Reserved.

平成29年度 活動報告

1 キャリア教育

【平成29年度開講 教養教育 キャリア教育領域一覧】

科目群	授業科目	単位	授業テーマ	担当教員	授業時限		履修者数		
					前期	後期	前期	後期	
学生支援	留学生支援実践 (国際理解実践S)	2単位	留学生支援実践	森 浩平	-	水9・10	-	10(10)	
	障がい学生支援実践 (現代社会理解実践S)	2単位	障がい学生への支援	栗田 季佳 他	-	火3・4	-	26(24)	
	ピアサポート実践	2単位	ピアサポート実践	鈴木 英一郎 他	金9・10	-	10	-	
		2単位	ピアサポート実践	森 浩平 他	-	金9・10	-	2	
	学生生活支援実践	2単位	学生生活支援実践	鈴木 英一郎	-	水5・6	-	5	
	学習支援実践	2単位	学習支援実践A	奥田 久春 他	木3・4	-	1	-	
		2単位	学習支援実践B	森 浩平	水9・10	-	18	-	
	広報誌編集実践	2単位	広報誌編集実践	長屋 祐一	-	木7・8	-	4	
	大学紹介実践	2単位	大学紹介実践	森 浩平	-	金3・4	-	4	
就業力育成	キャリアプランニング入門	2単位	キャリアプランニング	長谷川 岳雄	水5・6	-	40	-	
		2単位			-	水5・6	-	58	
	インターンシップ入門	2単位	インターンシップ		月9・10	-	1	-	
	キャリアイベント実践	2単位	問題を解決する技術		-	水9・10	-	4	
	キャリア形成論	2単位	考える&伝える技術		水9・10	-	11	-	
	企業研究入門	2単位	企業・社会人を知る		-	月7・8	-	15	
	アントレプレナー論 (日本理解特殊講義S)	2単位	起業マインドの醸成		松岡 守 他	金9・10	-	2(37)	-
	地域と仕事 (日本理解特殊講義S)	2単位	地域の仕事を知る		西村 訓弘 他	月7・8	-	60(39)	-
	社会連携型実践	2単位	社会連携型実践		西村 訓弘 他	-	月7・8	-	2
心的援助・マネジメント	こころのサポート (こころのサポート)	2単位	こころのサポート	森 浩平	水5・6	-	24(127)	-	
		2単位	こころのサポート	鈴木 英一郎 他	-	水9・10	-	8(36)	
		2単位	こころのサポート	望木 郁代	木5・6	-	4(66)	-	
					-	木5・6	-	7(55)	
	A-Iポジティブ思考法 (心理学S)	2単位	A-Iポジティブ思考法	川島 一晃	月7・8	-	7(44)	-	
		2単位	A-Iポジティブ思考法		-	月7・8	-	15(30)	

()は教養統合科目で外数

計 9科目 13科目 178(313) 170(155)
合計 491 325

2 インターンシップ

【平成29年度 所属別・学年別参加者数】

延べ数

所属	学部生					大学院生			合計
	1年	2年	3年	4年	小計	修士	博士	小計	
人文学部	2	8	130	5	145	1		1	146
教育学部	1	1	13		15			0	15
医学部	1	2		2	5	1		1	6
工学部	1	1	98	6	106	56	1	57	163
生物資源学部	25	17	85	4	131	12	2	14	145
地域イノベーション学研究科	-	-	-	-	-	14		14	14
合計	30	29	326	17	402	84	3	87	489

○企業等受入数 214機関

○説明会/事前研修会 685名

5月13日(土)9:30~12:00 講堂大ホール他にて

○説明会/事前研修会 128名

10月18日(水)15:30-18:00 講堂小ホールにて

3 就職活動支援

(1)就職ガイダンス

・平成29年4月~平成30年3月 26回実施 講堂大ホール他

・参加学生数 延べ 8831人

参加数	NO	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	講師
879	1	4月19日	(水)	①13:30~15:00 ②15:10~16:00	講堂大ホール	①就活スケジュール等、 就職活動について全般(就活手帳配布) ②職務適性テスト実施	マイナビ ディスコ
		4月20日	(木)	①16:30~18:00 ②18:10~19:00			
		4月21日	(金)	①16:30~18:00 ②18:10~19:00			
195	2	5月10日	(水)	13:00~14:30 16:30~18:00	講堂小ホール	公務員試験対策説明会 -公務員とは-	大学生協
634	3	6月7日	(水)	13:30~15:00 16:30~18:00	講堂大ホール	業界・企業・職種研究講座 -自分に合った企業の選び方-	ディスコ
		6月9日	(金)	16:30~18:00			
271	4	7月5日	(水)	13:30~15:00 16:30~18:00	講堂小ホール	筆記試験対策(SPI他)	リクルートキャリア
		7月7日	(金)	16:30~18:00			
7	5	9月27日	(水)	13:00~17:00	メディアホール	就職相談会!(4年、M2年対象)	キャリア支援 センター

参加数	NO	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	講師
76	6	10月4日	(水)	16:30~18:30	講堂小ホール	業界研究セミナー -異業種5社によるパネルディスカッション-	でらコラボ
195	7	10月11日	(水)	13:30~15:00 16:30~18:00	講堂大ホール	就活のリアル -先輩はこんな就職活動をしてきた!-	Rコンサルティング
749 (うち学生 141)	8	10月14日	(土)	10:30~12:00	講堂大ホール	[第1部] 保護者向け「就職活動」についての説明会	リクルートキャリア
				午後	講堂小ホール・ 各会場にて	[第2部]学部別保護者向け説明会	学部学務にて
146	9	11月6日	(月)	16:30~17:30	第5会議室 (総合研究棟II2階)	先輩に聞く就職活動について [食品・化学、機械(輸送)、 インフラ・IT、金融、官公庁]	キャリア支援 センター
	10	11月7日	(火)				
	11	11月8日	(水)				
	12	11月9日	(木)				
112	13	11月10日	(金)	16:30~18:00	医学部臨床 第三講義室	採用動向解説講座 -みなさんの質問に答えます-	マイナビ
24組 36名	14	11月11日	(土)	13:30~15:30	伊賀サテライト 伊賀研究拠点	伊賀地区保護者様向け就職説明会	伊賀サテライト キャリア支援センター
291	15	11月15日	(水)	午後	講堂にて	三重県内企業研究会	キャリア支援 センター
107	16	11月14日	(火)	16:30~18:30	第5会議室 (総合研究棟II2階)	ES対策 -自己PR編-	キャリア支援 センター
		11月17日	(金)	16:30~18:30			
		11月22日	(水)	13:00~15:00 16:30~18:30			
54	17	11月29日	(水)	13:00~15:00 16:30~18:30	第5会議室 (総合研究棟II2階)	ワーク!企業研究	ディスコ
		11月30日	(木)	16:30~18:30			
		12月1日	(金)	16:30~18:30			
31	18	12月2日	(土)	終日	学外 (熊野古道センター)	企業研究会in東紀州	キャリア支援 センター
107	19	12月5日	(火)	16:30~18:30	第5会議室 (総合研究棟II2階)	ワーク!グループディスカッション	リクルートキャリア アクセスヒュー マネクス マイナビ
		12月6日	(水)	13:00~15:00 16:30~18:30			
		12月8日	(金)	16:30~18:30			
97	20	12月13日	(水)	13:00~15:00 16:30~18:30	第5会議室 (総合研究棟II2階)	ES対策 -志望動機編-	学情
		12月14日	(木)	16:30~18:30			
		12月15日	(金)	16:30~18:30			
311	21	1月17日	(水)	15:30~16:20 16:30~18:00	医学部臨床 第三講義室	①働くときに知っておきたい! -労働法の基礎知識 求人票の見方- ②合同企業説明会活用講座! -合説をフル活用するための事前準備-	三重労働局 マイナビ
173	22	1月24日	(水)	13:00~16:00	講堂小ホール・ ホワイエにて	公務員業務説明会	各官公庁
199	23	2月15日	(木)	13:00~17:00	講堂大ホール・ ホワイエにて	面接対策および企業人事の ぶっちゃけトーク	マイナビ リクルートキャリア

参加数	NO	日程	曜日	時間帯	場所	ガイダンス名	講師
300	24	2月21日	(水)	13:00~14:30	講堂小ホール	学内企業説明会プレガイダンス -企業説明会まわり方講座-	アクセスヒュー マネクス
		2月27日	(火)	13:00~14:30			
64	25	2月27日	(火)	①10:30~12:00 ②14:50~16:20 ③16:30~18:00	各会議室	実践! 集団模擬面接講座	マイナビ
3797	26	3月5日(月)~3月8日(木)の4日間			講堂にて	学内企業説明会	キャリア支援 センター

(2)ミニ講座(少人数制:個人面接・集団面接・グループディスカッション対策)

- ・平成29年4月~平成30年3月 14回実施 第5会議室 他
- ・参加学生数 延べ51人

	実施日	内容	参加数		実施日	内容	参加数
1	4/26	個人面接対策	3	8	6/29	個人面接対策	3
2	5/1	個人面接対策	3	9	7/6	個人面接対策	4
3	5/8	個人面接対策	3	10	7/12	個人面接対策	5
4	5/15	個人面接対策	5	11	7/20	個人面接対策	3
5	5/30	個人面接対策	5	12	7/27	個人面接対策	8
6	6/5	個人面接対策	2	13	8/3	個人面接対策	3
7	6/26	個人面接対策	3	14	10/5	個人面接対策	1
計 51							

(3)就職相談

- ・キャリアカウンセラー就職相談[就職相談コーナー]

【月別・相談内容別件数】

延べ数

	就職相談	進路決定 相談	内定・内 定の相談	履歴書 作成	エントリー シート作成	志望動機	自己PR	面接	メンタル 面	自己分析	その他	合計
4月	19	2	4	7	82	6	3	89	0	0	8	220
5月	24	2	12	9	33	5	2	75	0	0	5	167
6月	29	2	22	2	27	4	0	27	0	0	5	118
7月	19	1	10	0	21	1	1	43	0	0	6	102
8月	18	0	7	7	15	0	1	23	0	0	3	74
9月	15	1	3	3	11	3	4	17	0	0	2	59
10月	32	0	4	2	19	4	3	30	0	0	4	98
11月	19	6	3	5	25	1	1	29	0	0	2	91
12月	19	2	4	1	28	0	8	15	0	0	2	79
1月	16	2	2	9	49	1	5	19	0	0	2	105
2月	26	3	1	5	54	1	8	16	0	4	1	119
3月	19	3	5	11	214	10	3	31	0	0	1	297
合計	255	24	77	61	578	36	39	414	0	4	41	1529

4 キャリアピアサポーター

○平成29年度(前期) 上級 7人 資格認定者 初級 10人
○平成29年度(後期) 上級 10人 資格認定者 初級 19人 合計 46人

平成29年度就職状況について

【地域別就職状況及び就職率】

Table showing employment status by region (区) and department (学部). Columns include: 区, 学部, 卒業・修了者, 就職者, 就職率(%), 就職希望者に占める就職者の割合, 平成29年度就職率(%), 平成28年度就職率(%), 平成27年度就職率(%).

(注)博士課程、修士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

()内は、女子学生数を内数で示す。

【産業別就職状況】

Table showing employment status by industry (産業別). Columns include: 区分, 卒業・修了者, 就職者, 就職率(%), 就職希望者に占める就職者の割合, 平成29年度就職率(%), 平成28年度就職率(%), 平成27年度就職率(%).

(注)博士課程、修士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

()内は、女子学生数を内数で示す。



キャリア科目のすゝめ

- 2017年度 後期版 -



三重大学 ビアサポーター学生委員会

皆さん、こんにちは！

私達は **ビアサポーター学生委員会**（通称：**ビアサポ**）です！

突然ですが、皆さんは「キャリア・ピアサポーター資格」を知っていますか？
この資格には、初級資格と上級資格があり、「キャリア教育」科目（一部は「国際理解・現代社会理解」科目としても開講）を履修することで、資格を取得できます。
そして、上級資格を取得すると、キャリア教育科目などの授業において、SA (Student Assistant) として、教員の授業補助や受講者のサポートができます！（また、SAの業務には、授業時間に応じた謝礼が大学から支給されます。）

キャリア教育科目では、企業ハインターシップに行ったり、理想の授業を企画・実践したり、大学の広報業務に関わったり、とても貴重な経験ができます！コミュニケーション能力や発想力など、将来、社会で役立つ力を身につけることもできます！

今回、**ビアサポ**では、キャリア・ピアサポーター資格の取得者を増やしたいと思い、資格取得に必要な科目を紹介する、この、「**キャリア科目のすゝめ**」を作成しました！ぜひ、これを読んで、キャリア・ピアサポーター資格取得を目指して、キャリア教育科目を受けてみましょう！

ビアサポーター学生委員会 ビアサポーター一同

目次

1. 「キャリア・ピアサポーター資格」って？ 1
2. 2017年度後期間講 キャリア教育科目紹介
 - 留学生支援実践（担当教員：森 浩平 先生）..... 3
 - 障がい学生支援実践（担当教員：栗田 季佳 先生 他）
 - ビアサポート実践（担当教員：森 浩平 先生 他）..... 4
 - 学生生活支援実践（担当教員：鈴木 英一郎 先生）
 - 広報誌編集実践（担当教員：長屋 祐一 先生）..... 5
 - 大学紹介実践（担当教員：森 浩平 先生）
 - キャリアプランニング入門（担当教員：長谷川 岳雄 先生）..... 6
 - キャリアイベント実践（担当教員：長谷川 岳雄 先生）
 - 企業研究入門（担当教員：長谷川 岳雄 先生）..... 7
 - 社会連携型実践（担当教員：西村 訓弘 先生 他）
 - 知財学（担当教員：松岡 守 先生 他）..... 8
 - こころのサポート（担当教員：鈴木 英一郎 先生）
 - こころのサポート（担当教員：望月 郁代 先生）..... 9
 - A-I ポジティブ思考法（担当教員：川島 一寛 先生）
3. **ビアサポ**とは？ 10
4. 編集後記 11

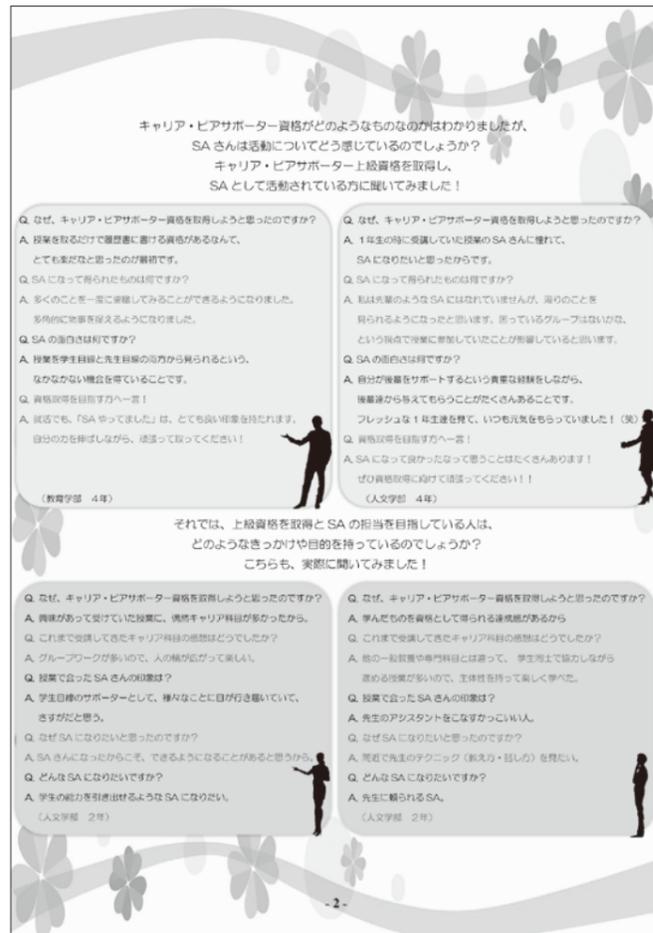


～「キャリア・ピアサポーター資格」って？～

キャリア・ピアサポーター資格には、**初級資格**と**上級資格**があり、**キャリア教育科目**（一部は「国際理解・現代社会理解」科目としても開講）を履修することで資格が取得できます。
上級資格を取得すると、キャリア教育科目などの授業において、SA (Student Assistant) として、教員の授業補助や受講者のサポートができます。SAとしての経験や、キャリア教育科目の受講を通して得た経験は、対人関係能力やコミュニケーション能力、主体性、発想力など、将来、**社会で役立つ力の成長につながる**でしょう！（また、SAの業務には、授業時間に応じた謝礼が大学から支給されます。）
さらに、この資格は**履歴書にも書くことができる**ので、就職活動にも役立つでしょう！

「でも、資格となると、たくさんの科目を履修しないと取得できないんじゃないの？」
そう思った皆さん、
初級資格であれば、「スタートアップセミナー」を含めた3科目で資格が取得できます！
また、学部・学科によっては、**キャリア教育科目が卒業単位として認定**されます。
そして、授業によっては、「キャリア教育」科目としてだけでなく、「**国際理解・現代社会理解**」科目としても開講されています！
つまり、
どの学部・学科の方でも、卒業単位の中で資格に必要な科目を履修することができます！

「でも、資格取得に必要な科目がわからない！」「資格取得の手続きをどうしたらいいかわからない！」という皆さんへ！
入学時に配布された『**キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド**』に詳細がありますので、一度ご確認ください。
失くしちゃった、という人は、下のQRコードからも、同ガイドを確認できます！
資格取得の手続きや、資格取得に必要な科目などはこれで確認しましょう！



～ビアサポとは？～

さて、ここで本書の執筆を行った、私達 **ビアサポーター学生委員会**（通称：**ビアサポ**）についても紹介したいと思います！
皆さん、「**ピアサポーター**」「**ピアサポート**」という言葉を知っていますか？
ピア (peer) とは、「仲間」という意味で、ピアサポートでは、同じ大学の学生（仲間）をサポートするために活動（ピアサポート）をしています！
活動内容は、
「春のなんでも相談」：新入生の大学生活や履修の相談。
「料理教室」：主に下宿生を対象とした、簡単にできる料理の紹介。
「マニ友の会」：各自が自分のコレクションを持ち寄り、その魅力について語り合う会。
などなど、**三重大生の大学生活をより充実したものにするために、様々な活動を行っています！**
もし、**ピアサポの活動に参加したい！こんなイベントを開催してほしい！**等のご意見・ご要望がございましたら、ぜひ、下記のメールアドレスまでご連絡ください！
miedai.sapo@2@gmail.com

また、ピアサポは twitter でも活動の様子を発信しています。こちらもご覧になってみてください！
[@miedai_sapo](https://twitter.com/miedai_sapo) (三重大サポ)



キャリア・ピアサポーター資格取得を目指して頑張ろう！



上：授業内で受講生のグループワークをサポートする SA
中：キャリア・ピアサポーター上級認定式(2017年4月)
下：キャリア・ピアサポーター資格取得者らによる学生支援イベントの様子

VI SA(スチューデント・アシスタント)

SA(スチューデント・アシスタント)の 取り組みをふりかえって - SAとして活躍する先輩から学ぶ -

SA(Student Assistant)の取り組みとは、キャリア・ピアサポーター上級資格を取得した学生を活用する学生支援施策である。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験をすることは自身のキャリア(生き方)に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と呼称し、学生個々人のその人らしさを活かした、ピア(仲間)を支援することを推進している。キャリア・ピアサポーターには、初級資格と上級資格が設けられている。学生が支援に関連する様々な知識・技能・態度を高めることのできる講義・演習を一定数受講することで、これらの資格を取得できるという資格教育プログラムが設置されている。

キャリア・ピアサポーター上級資格を取得するまでに、学生は、他者に対する学生支援(ファシリテーション)を実践的に学ぶ講義・演習科目(学習支援実践)や、他者に対する心理的支援を実践的に学ぶ講義・演習科目(こころのサポート)を必修科目として、単位取得しなくてはならない。SAとなる学生の力量を保証するため、他者への配慮や支援方法などについて学ぶことになっている。SAとして、ただの授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促すファシリテーションや、受講生の学びをより深めるための支援が望まれている。本学では、教職員ではなく、学生同士、先輩だからこそできる学習支援、学生支援を目指しているのである。

学習支援実践という授業科目は、他者に対する学習支援実践を学びながら、先輩SAの学習支援やサポートを受けるといった構造になっている。先輩SAからの学習支援やサポートを受けながらも、その支援の方法や内容等をモデルとして学ぶことができるのである。学習支援実践を受けた学生たちに、「この授業で何を学び、SAとなったときにどう生かすか」聞いたところ、先輩SAからの具体的な学習支援やサポートを例に挙げながら、「答えを本人から導くことができるように、一人ひとりの個性を見る、見つけることが大事だと思った」、「学生のグループ活動への接し方と、個々の学生への接し方のバランスを学んだ」、「学習者がどれくらい理解しているかを把握したうえで、話し合いが詰まったとき等にタイミングよく必要なサポートをくれた」、「SA自身が親しみやすく、前向きな姿勢で取り組んでいて、雰囲気をつくってくれた」等が挙げられた。想像していた以上に、先輩SAをモデルに学習していることがうかがわれた。

平成29年度は、学内の先生方のご理解のもと15科目でSA総数19名を活用した授業が行われた。SAを活用することによる授業の受講生への効果、さらにはSA自身への効果を先生方が感じてくださっていることを願いたい。

●Table1 平成29年度SA採用者及びSA活用授業

期間	授業名	学部	学年	人数
前 期	ピアサポート実践	教育	4年	1名
	学習支援実践B	教育・生物資源	4年・3年	2名
	キャリアプランニング入門	人文	3年	1名
	アントレプレナー論	工	4年	1名
	AIーポジティブ思考法ー	人文・生物資源	3年	2名
後 期	留学生支援実践	生物資源	3年	1名
	障がい学生支援実践	生物資源	3年	1名
	ピアサポート実践	人文	2年	1名
	学生生活支援実践	人文	2年	1名
	広報誌編集実践	生物資源	3年	1名
	大学紹介実践	生物資源	3年	1名
	キャリアプランニング入門	人文	2年	1名
	知財学	教育	4年	1名
	こころのサポート	人文・教育	3年・4年	2名
	AIーポジティブ思考法ー	工・人文	2年・3年	2名
合計				19名



申請ってどうするの？

資格認定までのステップ

STEP 1

キャリア・ピアサポーター資格申請書 および成績証明書を提出

HPでダウンロードできます！
<http://www.mie-u.ac.jp/life/peer/license.html>

定められた時期までに、
キャリア支援センター(就職支援チーム)に提出します。
[提出場所:総合研究棟II階キャリア支援センター(就職支援チーム)]

2017年度における資格申請期間

[前期末申請]

申請書締切7/24(月)～8/4(金) 成績証明書締切9/12(火)

[後期末申請]

申請書締切1/29(月)～2/9(金) 成績証明書締切4/2(月)

STEP 2

学生総合支援センター会議による審査

[資格認定基準]

- 資格認定要件となる授業において単位を取得していること。
- キャリア・ピアサポート活動に従事するに当たり、十分な意欲と素養を備えていること。

STEP 3

基準を満たす学生に対して、 初級資格、または上級資格認定証を授与

資格認定者の発表は、前期末申請分については9月下旬、後期末申請分については次年度4月下旬を予定しています。

Special Step

SA (Student Assistant) 申請

上級資格取得者のみ申請でき、審査を受け、任用されます。

資格取得に関わる科目を選ぼう！

初級資格取得に 必要な科目

必修科目(2科目) ◆スタートアップセミナー ◆キャリアプランニング入門

+

選択科目(1科目)

下記から1科目選んでください ※()は教養統合科目として履修した場合の科目名

- ◆留学生支援実践(国際理解実践S)
- ◆障がい学生支援実践(現代社会理解実践S)
- ◆ピアサポート実践
- ◆学生生活支援実践
- ◆広報誌編集実践
- ◆大学紹介実践
- ◆キャリアイベント実践
- ◆社会連携型実践

全部で
3科目!



上級資格取得に 必要な科目

必修科目(2科目) ◆学習支援実践 ◆こころのサポートまたはA-Iポジティブ思考法(心理学S)

+

選択科目(2科目)

下記から2科目選んでください ※初級資格で申請した科目以外を選択する。 ※()は教養統合科目として履修した場合の科目名。

- ◆留学生支援実践(国際理解実践S)
- ◆障がい学生支援実践(現代社会理解実践S)
- ◆ピアサポート実践
- ◆学生生活支援実践
- ◆広報誌編集実践
- ◆大学紹介実践
- ◆キャリアイベント実践
- ◆社会連携型実践
- ◆インターンシップ入門
- ◆キャリア形成論
- ◆企業研究入門
- ◆アントレプレナー論(日本理解特殊講義S)
- ◆地域と仕事(日本理解特殊講義S)
- ◆知財学

全部で
4科目!



※選択必修科目や選択科目については毎年変更されますので履修案内にて確認してください。いずれの年度に習得した単位であっても認められます。

3 資格取得を目指した履修スケジュールを確認しよう！

例1

1年前期

- ◆スタートアップセミナー
- ◆キャリアプランニング入門
- ◆ピアサポート実践

AviCe

前期末に初級資格申請をしたいから、前期に実践科目を履修しよう。

初級資格
認定!

1年後期

- ◆こころのサポート
- ◆留学生支援実践
- ◆広報誌編集実践

AviCe

上級資格に必要な選択科目の単位を1年後期に取ってしまう。

2年前期

- ◆学習支援実践

AviCe

2年前期に、上級資格の必修科目の学習支援実践を履修しよう。

上級資格
認定!

2年後期から
SAに!

2 キャリア・ピアサポーター 資格教育プログラムを受けよう!

Goal!
SA
(Student Assistant)

こんなことに
チャレンジできます!

★スタートアップセミナー等のセミナー・実践形式の授業において、教員の授業補助や、受講している学生のサポート業務を担当できる!

グループ活動をどうやって進めていけばよいかを学べ、就職してから役立つ力が養える!

こんなことに
チャレンジできます!

- ★大学生活についての相談活動
- ★学生同士の交流や大学活性化、キャリア支援を目的としたイベント企画実施
- ★修学支援活動の企画実施
- ★学内機関や学生団体とのコラボレーション

Step up!
上級資格取得者

Step up!
初級資格取得者

Start!
全学生

資格を取得してからの自分の変化

自ら
行動する力が
つく!

学部・学年を越える
仲間と出会い、
高めあえる。

より充実した
大学生活に!!

各講義の開講時期は年度により異なりますので履修案内で必ず確認してください。

例2

1年前期

- ◆スタートアップセミナー
- ◆キャリアプランニング入門

Advice

初級資格と上級資格に必要な単位が足りるように、1年後期に、キャリア科目をたくさん履修してみよう。

1年後期

- ◆学生生活支援実践
- ◆AIポジティブ思考法
- ◆社会連携型実践
- ◆企業研究入門

初級資格
認定!

2年前期

- ◆学習支援実践

Advice

2年前期に、上級資格の必修科目の学習支援実践を履修しよう。

上級資格
認定!

2年後期から
SAに!

資格取得を通して社会人としての 「実践力」を身につけよう!

大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、知識だけでなく、獲得した知識に基づいた実践のための応用力が求められるようになります。

しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。

三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。

また、所定の科目を履修した学生に対しては、「キャリア・ピアサポーター初級資格」、および「キャリア・ピアサポーター上級資格」を認定します。

「キャリア・ピアサポーター」資格を取得した学生は、授業補助等で教員のサポート役を担う

「SA(Student Assistant)」をはじめ、学生が同じ学生を横の関係で支援する「なんでも相談活動」や、

各種修学(授業)支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画など、三重大学の活性化にも

つながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。さらには、こうして学内の様々な

現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な「対人関係能力」や「コミュニケーション能力」といった能力を身につけていくこともできるでしょう。

あなたも、「キャリア・ピアサポーター」資格を取得して、一緒に三重大学を盛り上げていきませんか。

そして、あなた自身の「実践力」を伸ばしていきませんか。



※三重大学の学生支援オリジナルマスコットキャラクター「三重大サボ太」

VII 学生総合支援センター主催行事

学生総合支援センター主催行事① 学生支援サミット2017

趣旨

三重大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために、協働して議論を行う機会として年に一度開催しています。本年度は、サブタイトルに「学生、教員、職員で実現するユニバーシティ・エンゲイジメントプロジェクト」を掲げ、大学に誇りを感じ、皆が生き生きとしている状態の実現を目指し、サミットを開催しました。

テーマ・内容

「誰もが安心できる安全なキャンパスの実現」を今年度のテーマとし、近年三重大学においても問題視されている「交通問題」の改善について検討しました。各自で出し合ったアイデアをポスターにまとめ発表し吟味する中で、大学環境の改善につながる具体的なアクションを模索しました。

日時・場所

事前ガイダンス

日時：平成29年7月19日(水)14:40～15:00

場所：教養教育校舎3号館 1131教室

学生支援サミット

日時：平成29年7月26日(水)13:30～16:00

場所：メディアホール

当日の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生49名、教員9名、職員24名の、計82名でした。

参加者によって出された「交通問題」改善のためのアイデア

- ・駐輪マナーの悪い自転車の持ち主にペナルティを科す
- ・毎年自転車登録シールを更新していく
- ・駐輪可能区画、駐輪禁止区画にロードペイントをする
- ・交通担当のサークルを作る
- ・歩ける人は歩く
- ・自転車専用レーンの設置・左側通行
- ・組織間での連携
- ・スタートアップセミナーや授業で自転車問題の啓発を行う など

詳細は、学生総合支援センターHPに掲載しています。

学生支援サミット2017報告書 <http://www.mie-u.ac.jp/life/gakushiensummit2017.pdf>

「学生支援サミット2017～学生、教員、職員で実現するユニバーシティ・エンゲイジメント・プロジェクト～」が開催されました

2017年8月4日

7月26日(水)、総合研究棟Ⅱメディアホールにおいて、「学生支援サミット2017～学生、教員、職員で実現するユニバーシティ・エンゲイジメント・プロジェクト～」が開催されました。



本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションをし、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援センター主催で毎年開催されているイベントです。

本年度は「誰もが安心できる安全なキャンパスの実現」をテーマに、学生・教職員合わせて82名が参加し、学生総合支援センター障がい学生支援室 森浩平講師の進行のもとサミットが行われました。

冒頭、学生総合支援センター副センター長 長屋祐一准教授から「学生と教職員が力を合わせて、より良いアイデアを出していきましょう」と開会の挨拶がありました。

学内外の交通問題について、「キャンパス内の自転車の盗難」「大学周辺アパートへの無断駐輪・無断駐車」など、実際に三重大学に寄せられた意見・課題を例に挙げ、学生・教職員を交えた10人ほどの8グループに分かれ、それぞれに課題を選んで解決のアイデアを考案しました。



会場内ではカフェサークル「Le Lien」のコーヒー・紅茶も振舞われ、和気あいあいとした雰囲気の中で、各自の実体験も交えた活発な話し合いが行われました。

ディスカッション後の発表では、各チームから個性あふれるユニークなアイデアが発表され「交通安全サークルを作る」「自転車の買い取り・引渡し制度を作る」「駐輪場の増設」「マナーの悪い人へのペナルティを科す」などが提案されました。また、発表後には参加者投票により、「ベストグループ賞」「ベストアイデア賞」がそれぞれ選ばれ、表彰が行われました。

閉会の挨拶として、野崎哲哉 副学長(学生総合支援・インターンシップ担当)から「学生の皆さんからいただいた今日の意見をまとめて大学へ提言し、実現していきたい。」とお話があり、今後の進展が期待される有意義なサミットとなりました。



「学生支援サミット2017～学生、教員、職員で実現するユニバーシティ・エンゲイジメント・プロジェクト～」提言に関する回答式を開催しました

2018年3月1日

2018年2月22日(木)、三重大学講堂において、『学生支援サミット2017～学生、教員、職員で実現するユニバーシティ・エンゲイジメント・プロジェクト～』提言に対する回答式を開催しました。

本回答式は、昨年7月26日に開催された、より良い三重大学を目指して学生・教員・職員が協働してアイデアを出し合う『学生支援サミット2017』において、「誰もが安心できる安全なキャンパスの実現」に向けた具体策として出された提言に対して、駒田美弘学長よりご回答を頂く趣旨のもと行われた式です。

駒田美弘学長より、学生支援サミット2017に参加した学生らに向けて、提出された提言に対する回答、及び回答書の授与がなされました。内容は以下の通りです。



提言1：駐輪場の拡充と駐輪禁止区画のロードペイント(キャンパス内での事故防止・駐輪マナーに対して)

【回答】

上浜キャンパスの駐輪場計画については、「三重大学キャンパスマスタープラン2017」の方針に従い、予算の状況に応じて順次整備を行っていく予定である。

※参照：「三重大学キャンパスマスタープラン2017」

提言2：自転車登録システムの充実(放置自転車・自転車盗難・無断駐輪に対して)

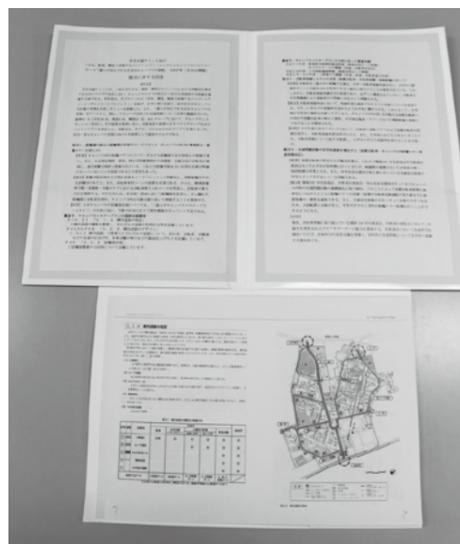
【回答】

30年度入学ガイダンスにおいて、自転車の運転マナーおよび放置自転車の問題を紹介し、自転車登録申請を呼びかける。また、各学部における入学ガイダンスでも、自転車登録について紹介を要請し、まずは1年生の登録率を高めることを目指す。

提言3：交通問題活動の全学的連携を強化する(放置自転車・キャンパス内駐輪マナー改善指導対応)

【回答】

現在、自転車問題に取り組んでいる環境ISO学生委員会、学祭実行委員会に加えて、生協学生委員会およびピアサポーターに協力を要請する。各委員会において交通担当を選出いただき、交通担当代表者会議を開催し、学内外の交通問題について全学的に協議する場を設ける。



また、駒田美弘学長から学生に対して、学生支援サミット2017及び本回答式をきっかけとして、自転車登録制度の先のステップを考えるなど、自転車利用や交通マナーに関するさらなる検討が必要であること、そして今後キャンパスをオシャレにしていくことができるかなど、さらなる大学の発展に向けたお話し等がありました。

最後は記念写真の撮影が行われ、学内外の交通問題に対する有意義な機会となった本回答式は、和やかな雰囲気の中締めくくられました。



学生総合支援センター主催行事② アカデミックフェア2018

趣旨

三重大学の学生の学習や研究の成果、地域や高大連携、支援活動等の実践について、三重大学関係者をはじめ、市民に対して広く紹介する機会とすることを目的として年に一度開催しています。

日時・場所

日時：平成30年2月22日(木)13:30～16:00

場所：三重大学講堂(小ホール・ホワイエ)

当日の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生99名(学内98名、学外1名)、教員18名(学内17名、学外1名)、職員(学内)24名の、計141名でした。

内容

①口頭発表、②ポスター発表&ディスカッション

アカデミックフェア2018発表一覧

No	発表形式	氏名	所属	発表分野	タイトル
1	口頭発表	青木奈緒子	生物資源学研究所 生物圏生命科学専攻	修士2年 修士研究	熱測定による微生物増殖過程の自動計測
2	口頭発表	青山瑠子	工学研究科建築学専攻	修士1年 卒業研究	卒業設計「真珠と巡る海と山」
3	口頭発表	久田光桜	人文学部	3年 専門教育	『児童相談所と警察の連携と改善』—イギリスの児童虐待対策をモデルとして—
4	口頭発表	井田千尋※	生物資源学部資源循環学科	2年 地域連携	三重創生ファンタジスタクラブの活動について
1	ポスター	澤田樹里	医学部看護学科	4年 卒業研究	カトリック応用科学大学との交流を卒業研究に活用して
2	ポスター	下形涼七	医学部看護学科	1年 専門教育	日本とタイにおける看護学生の倫理に関する教育の差に関する文献検討
3	ポスター	小関真代	医学部看護学科	4年 専門教育	看護学生が考える看護の多様性—三重大学実習船「勢水丸」乗船体験およびCUでの実習体験を経て醸成された観念の過程—
4	ポスター	宇佐美有樹	人文学部法律経済学科	3年 専門教育	トランプ政策がもたらす米国経済への影響
5	ポスター	國分美歩	人文学部法律経済学科金融論ゼミ	3年 専門教育	金融システムの今後
6	ポスター	恒川結衣	人文学部法律経済学科金融論ゼミ	3年 専門教育	地方創生において、地域金融機関が担うべき役割
7	ポスター	伊藤僚汰	人文学部法律経済学科	3年 専門教育	破壊的イノベーションと現代のアプローチ
8	ポスター	石橋直也	人文学部法律経済学科経営学総論ゼミ	3年 専門教育	「よい会社」とはなにか ～「ヒトを幸せにする経営」の実現に向けて～
9	ポスター	伊藤愛菜	人文学部法律経済学科	3年 専門教育	国内経済 世代間格差と労働環境のあり方
10	ポスター	井上温仁	人文学部法律経済学科経営学総論ゼミ	3年 専門教育	CSRと地域貢献—企業とNPOの提携—
11	ポスター	高見理紗	教育学部人間発達科学コース	3年 専門教育	多様な「恋愛」関係をふまえた恋愛観の比較
12	ポスター	増井佐千帆	教育学部発達臨床心理学研究室	3年 専門教育	子どもの頃の感動体験が愛他行動およびアサーション行動に及ぼす影響について
13	ポスター	森川厚実	教育学部発達臨床心理学研究室	3年 専門教育	気晴らしが自己成長主導性に与える影響について
14	ポスター	杉田悠河	教育学部発達臨床心理学研究室	3年 専門教育	大学生の達成動機及び楽観性が先延ばし行動に与える影響について
15	ポスター	松井利咲※	教育学部	2年 専門教育	オークランド大学における海外教育研修 について

No	発表形式	氏名	所属	発表分野	タイトル
16	ポスター	松岡史樹	人文学部	4年 教養教育	留学生交流イベントの実施～留学生との交流を通して～
17	ポスター	井谷麻衣子※	人文学部	2年 教養教育	日本語クイズ実施について～留学生交流イベント～
18	ポスター	畑智也	人文学部	2年 教養教育	留学生に向けたイベント～恵方巻を作る～
19	ポスター	勝田大雅	人文学部	2年 教養教育	学生が作る理想の授業「グラフの楽しさを知る」
20	ポスター	中根麻理菜	人文学部	2年 教養教育	「銀行員」を志望する学生への情報提供支援について
21	ポスター	小笠原望(岡本大和)	教育学部	3年 教養教育	「広告代理店」を志望する学生への情報提供支援について
22	ポスター	畑智也	人文学部	2年 教養教育	「大学教職員」を志望する学生への情報提供支援について
23	ポスター	岡本守永	人文学部	2年 教養教育	「検察事務官」を志望する学生への情報提供支援について
24	ポスター	藤田ひなの	人文学部	2年 教養教育	「公務員」を志望する学生への情報提供支援について
25	ポスター	松井利咲※	教育学部	2年 教養教育	「空きコマの活用に関するリーフレット作成の試み」
26	ポスター	山田峻平	人文学部	1年 教養教育	大学の食堂や周辺の飲食店についての紹介冊子の作成
27	ポスター	井谷麻衣子※	人文学部	2年 教養教育	音楽系サークルの紹介冊子の作成について
28	ポスター	岡本大和※	人文学部	2年 教養教育	留学生交流イベント(すころく)の企画・実施について
29	ポスター	岡本大和※	人文学部	3年 教養教育	学生が作る理想の授業「ゆるキャラから地域を学ぶ」
30	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題①
31	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題②
32	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題③
33	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題④
34	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑤
35	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑥
36	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑦
37	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑧
38	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑨
39	ポスター	栗田季佳(授業担当教員)	—	— 教養教育	障がい学生支援実践を受講しての学びの成果と課題⑩
40	ポスター	吉田慧聖	人文学部	2年 支援活動	三重大学バリアフリーマップの作成について
41	ポスター	松井利咲※	教育学部	2年 支援活動	ピアサポーター学生委員会 今年度の活動について
42	ポスター	井田千尋※	生物資源学部資源循環学科	2年 地域連携	三重創生ファンタジスタクラブについて

冒頭に駒田美弘学長より開会のご挨拶をいただき、人の心を動かす発表であることの重要性、そして多彩な発表への期待と激励のお言葉をいただきました。

その後、4名の学生による口頭発表が行われ、多分野にわたる専門性の高い研究や実践の発表に、参加者の方々も熱心に耳を傾けていました。



続いて、ポスター発表の内容や見どころについて、42名の学生からそれぞれ30秒でのプレゼンテーションが行われました。その後ホワイエに移動してのポスター発表となり、参加者も各ポスターの前で発表者の説明を聞きながら発表内容についての議論を行い、活発に交流をする風景が見られました。



また、ホワイエではカフェサークル Le Lien によるオリジナルブレンドコーヒーと紅茶がふるまわれ、和やかな雰囲気の中でイベントが行われました。



閉会の挨拶では、野崎哲哉副学長から、口頭発表やポスター発表を通して学生らの高度かつ多様な活動内容に触れることができたこと、そして本アカデミックフェアの今後の発展に対する期待のお言葉をいただきました。

「三重大学アカデミックフェア2018」を開催しました

2018年3月1日

2月22日(木)、三重大学講堂の小ホール及びホワイエにおいて、「三重大学アカデミックフェア2018」を開催しました。

本アカデミックフェアは、三重大学の学生の学習や研究の成果、地域や高大連携、支援活動等の実践について、三重大学の関係者をはじめ、市民の方々に対して広く紹介する機会として毎年開催しています。準備・運営には、ピアサポーター学生委員会や障がい学生サポーター、そして有志の学生たちがスタッフとして関わり、当日の司会進行も担当しました。今年度の司会は、ピアサポーター学生委員会の教育学部2年伊藤佳奈さんと人文学部1年鈴木翔也さんが務めました。



VIII 平成29事業年度に係る業務の実績に関する報告書

(平成30年6月 国立大学法人三重大学) (抜粋)

学生への支援

● インターンシップの取組強化

インターンシップの組織的支援及び卒業要件化、地域との連携強化、参加学生及び受入企業の増加に向けて下記の取組を行った。

さらなるインターンシップの取組強化と卒業要件化に向けて、新たにインターンシップ担当副学長を4月に置くとともに、全学的な検討を行う「インターンシップ検討プロジェクトチーム」を5月に立ち上げ、組織的な支援体制を整備した。本プロジェクトチームでは、本学における教育的インターンシップの定義を確定するとともに、各学部で実施している現行のインターンシップの状況をもとに今後の取組の基本方針や数値目標等を決定するなど、取組強化に向けた全学の認識共有を行った。

地域との連携による取組強化のため、学長が県内全ての自治体(29市町)及び県内企業等(196社及び23機関)を訪問するとともに、インターンシップ担当副学長が県内経済団体、行政機関、個別企業14箇所を訪問し、インターンシップ取組強化を含めた様々な意見交換等を行った。また、ステークホルダーと本学教職員で構成される「地域人材育成推進会議」において、卒業生が活躍できる就職先としての職種充実等の要請を含めて意見交換を行った。さらに、三重県と三重労働局と連携し、学生への直接的な支援により学内での就職支援を実施した。(「地域自治体や産業界との連携強化」P19参照)

平成29年度からの新たな取組として、本学におけるインターンシップの多様な取組を学生や企業へアピールし、参加学生及び受入企業を増やすため、本学のインターンシップ事例を紹介した冊子「三重大学におけるインターンシップ ー多様な取組の紹介ー」を作成した。1月には、「インターンシップ報告会」を実施し、インターンシップに参加した学生がインターンシップを通じて学んだことを発表するとともに、受入企業、学生の指導教員が参加した学生の成長等についてコメントするなど、出席した企業・団体106社125名、学生103名に対して、本学のインターンシップに関する取組成果の紹介を行った。

以上の取組等により、学生のインターンシップ受入先として、県内企業等を中心に100名程度の枠を確保するとともに、平成29年度のインターンシップ参加学生は

417名(昨年度比116名増)、受入企業等数は214機関(昨年度比49機関増)となった。

● 授業料免除制度の見直し

経済的困窮度の高い学生に対する支援を拡充するため、平成29年度は、授業料免除制度の見直し、新たな奨学金制度の設置等に取り組んだ。

授業料免除制度では、平成28年度に制度の案内方法をわかりやすく改善し、平成29年度に家計証明書類の簡素化及びユニバーサルパスポートシステムを利用したウェブ申請の一部導入により、申請手続の簡易化を実現した。その結果、授業料免除申請者数は1,999名で昨年度比546名の増(平成28年度実績1,453名)、授業料免除者数は1,596名で昨年度比297名の増(平成28年度実績1,299名)となり、申請者数等を大幅に増やすことができた。加えて、従来は手動で行っていた経済的困窮学生の順位付けを自動で行うことができる授業料免除システムを導入し、事務作業の効率化を図った。

上記取組による授業料免除申請者の増加に伴い、現行の授業料免除制度の見直しを実施した。具体的には、学業成績等優秀学生への授業料等免除枠を減らすことで、経済的困窮学生をより優先して授業料等免除者とすることとした。

一方で、学業成績等優秀学生への新たな支援策を講じることとし、「三重大学学業成績等優秀学生の授業料免除制度」を廃止して、「新たな学生への支援制度検討ワーキンググループ」を立ち上げ、新制度の内容について検討を行った。その結果、平成30年度から奨学金で支援する方針を決定した。

また、入学生免除適格者でありながら予算制約のため免除を受けられなかった学生に対して、返済不要の奨学金を支給する「三重大学入学特別奨学金制度」を新たに設置した。財源は、平成28年度に設置した「三重大学修学支援事業基金」とすることを決定し、平成30年度入学者から支援を拡大することができた。

以上のとおり、経済的困窮度の高い学生を優先した授業料免除制度と新たな奨学金制度の構築を進めた。

● 障がい学生支援の取組推進

本学の障がい学生支援体制を強化するため、新たに、障がい学生支援室に発達障がい者や精神障がい者

の支援を専門としカウンセリングマインドを有する専任教員を配置するとともに、相談窓口対応等を行う事務職員1名(非常勤職員)を配置し、以下のように、障がい学生に対する支援や支援学生の養成、教職員に対する支援に取り組んだ。

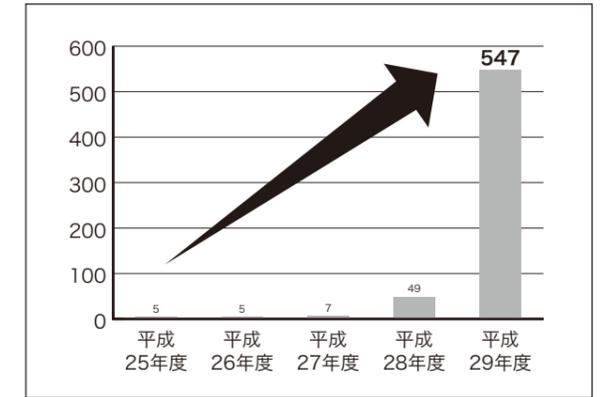
障がい学生に対して、主に障がい学生支援室で個別相談を実施し、教職員に対して、教室などの環境改善に対する提言や部局における障がい学生支援会議での意見交換を行うとともに、各部局主催のFDにおいて、部局と障がい学生支援室が連携して障がい学生支援に係る講義を行った。また、支援学生の養成のため、障がい学生支援室サポーターを募集し(登録者24名)、登録者は、障がいについての自主的勉強会の開催や、三重県雇用経済部雇用対策課障がい者雇用班の企画するセミナーへ参加するとともに、学内バリアフリーマップの作成に取り組んだ。これらの支援をさらに充実させるために、平成28年度から取り組んでいる障がい学生支援室、学生なんでも相談室の機能強化について、平成29年度もハローワーク津などの外部機関と障がいのある学生の就職支援に関する定期的な情報交換を実施し、学内外の関係機関との連携を図ることにより継続的に各室の機能強化に取り組んだ。具体的な取組のひとつとして、障がい者の就労支援にかかわる県内の外部機関の担当者を講師とした障がい学生支援セミナー「障がい学生の就労に関する現状と今後の支援体制について」を12月に開催した。本セミナーには、学外からの参加者22名を含む82名が参加し、障がい学生への就労支援の現状や実際の事例、各機関と大学との連携状況等について認識を深めた。

さらに、本学における今後の障がい学生支援に資するべく、教職員を対象とした「障害への意識・理解等に関するアンケート調査」を実施し、教員596名中254名(42.6%)、職員799名中445名(55.7%)から回答を得た。アンケートの結果、本学の障がい学生支援の課題が明らかになり、今後のセミナーの実施や支援担当実務者会議等の開催など課題解決に向けた取組の検討に活かすことができた。

以上の取組のほか、入学後早期からの相談受付を開始することを目的として平成29年度入学手続要項において障がい学生支援室の活動の周知を行った。

これらの相談支援体制の強化や理解・啓発活動の結果、平成29年度に障がい学生支援室として対応した相談者延べ人数が547名(実人数108名)となり、平成28年度の相談者延べ人数49名(実人数3名)と比較す

ると大幅な増加となるとともに、障がい学生支援のあり方についての事例を数多く蓄積することができた。



相談者延べ人数の推移(過去5年間)
※平成29年度より学生以外に教職員・保護者・三重県内の障害者支援関係機関の相談者を含む

● ピアサポーターによる活動の拡大

本学では、学生が学生の生活や修学を支援する「ピアサポーター」の養成を行っており、所定の科目を履修した学生に対して、本学の学内資格である「キャリア・ピアサポーター初級資格」、または「キャリア・ピアサポーター上級資格」を認定している。本資格を持つ学生を中心に構成された学生団体「ピアサポーター学生委員会」では、新入生を主な対象とした「なんでも相談活動」、学内の諸問題について教職員と学生が協働で話し合う「学生支援サミット」(平成29年度テーマ:誰もが安心できる安全なキャンパス)等の運営等を行っている。

平成29年度はこれらの活動に加え、学生のキャリア形成を支援する取組として「Work Vision ～働くとは何かを考えよう～」という新しい試みを行った。本取組では、有志の若き企業人で結成され様々な大学で自身の生き様について語り、学生が自身のキャリアや将来を見つめるきっかけを提供する団体SNAPのセミナーを学生が自主的に開催し、学生48名(キャリア・ピアサポーター学生委員会メンバー10名含む)が「働く」とはなにか、どのような働き方をしたいかについてディスカッションやグループワークを行った。

これらの取組により、ピアサポーターである学生の活動の可視化が促進され、平成29年度は年間目標40名を上回る46名のピアサポーター資格認定者を輩出することができた。

発行／平成30年8月
国立大学法人 三重大学
問い合わせ先／学生総合支援センター
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL:059-231-9679